

# 北九州市立自然史・歴史博物館

(北九州市立いのちのたび博物館)

年 報

平成 28 年度





## ごあいさつ

北九州市立自然史・歴史博物館（いのちのたび博物館）は平成 14（2002）年 11 月 3 日に北九州市立歴史博物館、北九州市立自然史博物館、北九州市立考古博物館が一つの施設となって開館した総合博物館です。開館以来、多くの方々に支えられ、平成 28 年度は 508,003 人と開館以来 2 番目となる多くのお客さまにご来館いただきました。厚く御礼申し上げます。

当博物館は「いのちのたび」をコンセプトとし、46 億年の地球の歴史を、生命の進化と人類の歴史を中心として紹介してきました。本年度（平成 29 年度）は開館 15 周年という節目の年にあたります。これまでの経験と反省を活かし、職員一同さらなる「進化」をめざして努力し、これまで以上に多くの皆様に愛される博物館となるよう取り組んでいきたいと思っております。

ここに昨年度（平成 28 年度）の年報を刊行いたします。多くの方々に当館の活動について知っていただき、博物館の「進化」のため、積極的なご意見とさらなるご協力を賜りますようお願いいたします。

平成 29 年 3 月

北九州市立自然史・歴史博物館

館長 上田 恭一郎

# 北九州市立いのちのたび博物館「理念と方向性」

## <理 念>

自然と人間の関わりを考える共生博物館

- 1 博物館の展示に於いて示していく
- 2 教育・普及事業に於いて啓発を行う
- 3 資料収集、保存及び研究を進めていく

## <方向性>

知的アクセス権を保障する博物館——知的好奇心への対応

- 1 ミュージアム・ネット化構想を進める
- 2 常に開館している博物館「24時間ミュージアム」を推進する
- 3 知的な疑問や関心に責任を持って応える

セカンドスクールとしての博物館——将来への知的投資

- 1 学校等に対して誘致事業を推進する
- 2 学校教育の支援事業を強化、拡大する
- 3 家庭教育の支援事業を充実する

研究の成果を教育・普及に生かす博物館——社会への知的還元

- 1 知識と経験を生かし、質の高い展示と教育・普及事業を行う
- 2 知の集積施設として外部の委員・講師や他組織の指導・助言を行う
- 3 地域の特性を活かした研究を行い、広く情報を発信する

# 目次

ごあいさつ

北九州市立いのちのたび博物館「理念と方向性」

## 目次

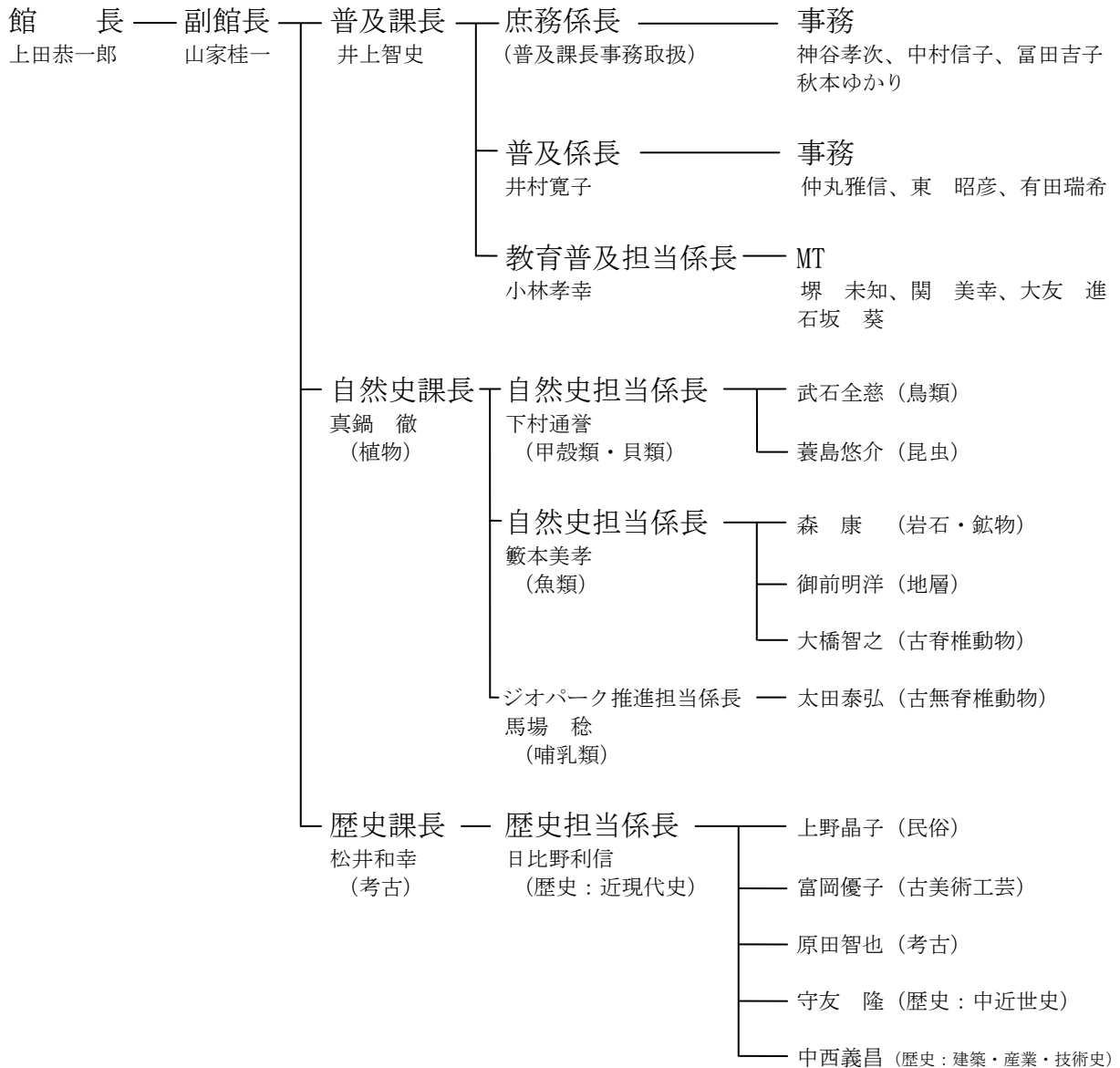
	頁
1. 組織・運営体制.....	1
2. 博物館協議会.....	2
3. 平成28年度予算.....	3
4. 施設概要.....	4
5. 沿革.....	5
6. 入館者の状況.....	8
7. 視察受け入れ状況.....	9
8. 広報・報道実績.....	10
9. 特別展.....	11
10. 企画展.....	16
11. その他の事業.....	20
12. 教育普及活動.....	24
13. 博物館ボランティア（シーダー）の活動.....	30
14. 自然史友の会の活動.....	31
15. 歴史友の会の活動.....	32
16. 資料の収集保存状況.....	33
17. 資料の特別観覧状況（自然史・歴史）.....	34
18. 資料の貸出状況（自然史・歴史）.....	35
19. 画像等資料の貸出状況（自然史・歴史）.....	36
20. 学芸員研究業績（自然史）.....	38
21. 学芸員研究業績（歴史）.....	42
22. 博物館刊行物.....	43



# 1. 組織・運営体制

## (1) 平成 28 年度組織

(平成 29 年 3 月末日時点)



## (2) 名誉館員

太田 正道 (2002.11.3)	藤丸 詔八郎 (2005.4.1)	戸来 義臣 (2007.4.1)
税田 昭徳 (2007.4.1)	藤井 厚志 (2008.4.1)	小野 勇一 (2010.4.1)
岡崎 美彦 (2010.4.1)	永尾 正剛 (2011.4.1)	有川 宜博 (2012.3.1)
上田恭一郎 (2013.4.1)	伊藤 明夫 (2015.4.1)	山根 明弘 (2016.4.1)

※ 括弧内は、就任日

## 2. 博物館協議会

### (1) 博物館協議会委員（任期 平成 27 年 9 月 1 日～平成 29 年 8 月 31 日）

会長	真鍋 真	国立科学博物館標本資料センターコレクションディレクター 国立科学博物館分子生物多様性研究資料センター長
副会長	泉優佳理	北九州市環境首都検定検討会構成員
	伊澤雅子	琉球大学理学部海洋自然科学科教授
	岩松文代	北九州市立大学文学部教授
	緒方 泉	九州産業大学美術館教授
	奥田淳一	北九州市立折尾東小学校校長
	木村洋子	一級建築士、東田まちづくり協議会メンバー
	佐藤睦子	梅光学院大学博物館学芸員
	染川香澄	ハンズオン・プランニング代表
	丸山誠吾	北九州市立高見中学校校長
	三島美佐子	九州大学総合研究博物館准教授

### (2) 開催日時

平成 28 年 8 月 30 日（火） 10:00～14:00

### (3) 内容

#### 1) 平成 27 年度事業実績（博物館年報）について

ア 概要

イ 特別展開催実績

「医は仁術」(H.27.10.10～H.28.1.11)

「大正・昭和の暮らしと風景展」(H.28.1.23～2.28)

「ふしぎの教室～よみがえる学校標本たち～」(H.28.3.19～5.15)

#### 2) 平成 28 年度事業計画について

ア 概要

イ 特別展開催計画

「関門幕末維新伝」

「発掘された日本列島 2016」

「ホントはすごい！どうぶつ展～飛ぶ！走る！泳ぐ！～」

ウ 東アジア友好博物館交流事業

エ ジオパーク活動推進事業

#### 3) 質疑応答



### 3. 平成 28 年度予算

歳 入 (単位：千円)		歳 出 (単位：千円)	
博物館使用料 (常設展入館料、駐車場料金など)	128,325	企画展・特別展開催経費	48,684
社会教育施設目的外使用料 (ミュージアムショップ使用料など)	1,556	資料整備・調査研究経費	13,074
企画費雑入 (特別展観覧料、刊行物販売など)	37,668	教育普及経費	3,211
		博物館維持管理経費等	241,098
計	167,549	計	306,067

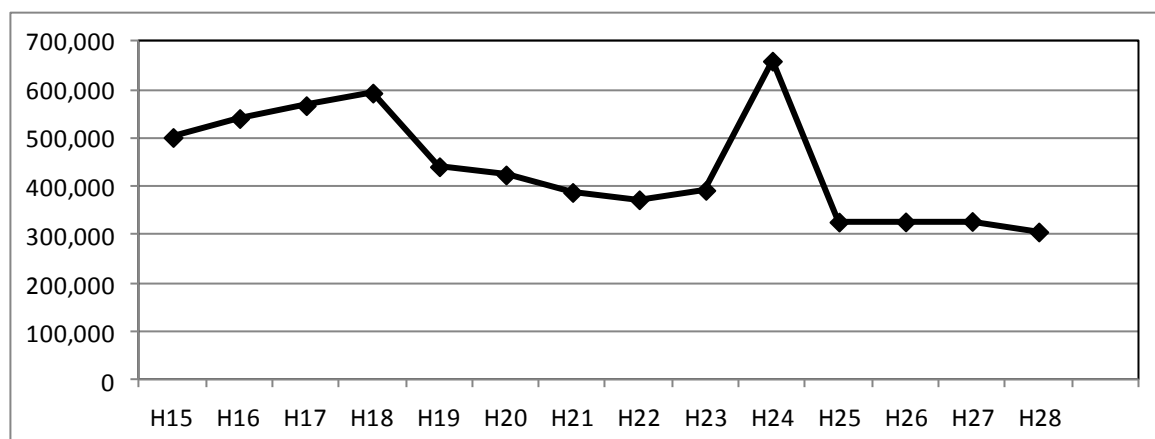
#### 博物館予算(歳出)の推移

(単位：千円)

年 度	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21
予算額	2,476,072	501,604	540,788	567,441	593,467	441,058	424,070	387,868
備 考	H14.11.3 開館		内、太陽光発電設備整備 32,000	内、太陽光発電設備整備 60,000	内、太陽光発電設備整備 108,000			
年 度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	
予算額	372,731	392,184	659,576	326,569	326,913	327,833	306,067	
備 考			内、博物館展示・施設等改修事業 300,000					

#### 博物館予算(歳出)の推移 (グラフ)

(単位：千円)



## 4. 施設概要

構造 鉄筋コンクリート造（一部鉄骨構造） 地上 3階  
各室面積

(単位：㎡)

室名	面積	室名	面積	室名	面積
展示部門	6,232	研究処理部門	871	管理部門	624
アースモール	1,885	地学系研究室	57	館長室	25
ぼけっとミュージアム (PM9～11)	253	生物系研究室 (植物・昆虫)	29	副館長室	25
エンバイラマ館 (リサーチゾーンを含む)	1,067	生物系研究室 (動物・魚類)	29	事務室	163
自然発見館 (バイオリウムを含む)	581	歴史研究室	87	応接室	32
ギャラリー館	509	骨格標本作成室	36	会議室	62
歴史展示 (カルチャーモールを含む)	1,755	燻蒸室 (前室を含む)	30	印刷室・出版物保管室	29
こどもミュージアム (乳幼児対象)	89	解剖室	46	救護室	21
こどもミュージアム (小学生対象)	93	無脊椎動物化石処理室	30	更衣室	13
		脊椎動物化石処理室	30	一般倉庫	57
		岩石鉱物処理室	37	交流員控室	25
		昆虫標本処理室	30	管理人室	26
		動植物標本処理室	60	会議室 S	30
情報部門	1,018	液浸標本処理室	30	会議室 R	30
		技工室	60	会議室 X	49
		整理室	60	外来市民研究室	37
ホール (オープンギャラリーを含む)	509	暗室 (前室を含む)	26		
ガイド館 (倉庫 2 を含む)	386	撮影室	41		
情報館	123	電子顕微鏡室	40		
		コンピューター室	28		
探究部門	204	保存科学室	40		
		薬品室・特殊薬品室	25		
実習室	123	シャワー室	6		
講座室	81	器材倉庫	14		
収蔵部門	2,506				
荷解室	96				
一時保管室	64				
組立室	52				
冷凍室・冷蔵室 (前室を含む)	49				
地学系収蔵庫	202				
液浸標本収蔵庫	221				
重量物収蔵庫	204				
植物標本収蔵庫	234				
動物標本収蔵庫	165				
昆虫標本収蔵庫	238				
模式標本収蔵庫	44				
歴史資料収蔵庫	430				
考古資料収蔵庫 (金属器を含む)	75				
特別収蔵庫	71				
古文書・古美術収蔵庫	140				
書庫	138				
展示準備室	83				
				サービス部門	463
				ミュージアムショップ	156
				休憩ルーム	206
				休憩デッキ	101
				供用部門	5,093
				合計	17,011

## 5. 沿革

- 昭和 50(1975)年 【歴史】 8月 北九州市立歴史博物館開館 (8/1)
- 昭和 51(1976)年 【歴史】 1月 特別展「豊前修験道・英彦山展」
- 【自然史】 5月 小学生の発見をきっかけに、山田弾薬庫跡地で世界最古のニシン科魚類化石  
ディプロミスタスが発掘される
- 【歴史】 10月 特別展「洞海湾の歴史」
- 【自然史】 10月 北九州産魚類化石展「北九州市の魚類化石～化石から見た北九州～」  
主催：北九州市教委・北九州市産魚類化石展示実行委員会
- 昭和 53(1978)年 【自然史】 4月 戸畑市民会館内に「自然史博物館開設準備室」設置
- 【自然史】 10月 マッコウクジラの生の骨が到着
- 昭和 54(1979)年 【自然史】 1月 「北九州自然史友の会」が発会し、機関誌「わたしたちの自然史」の発行 (1/7)
- 昭和 55(1980)年 【歴史】 7月 特別展「日韓文化交流展～古代のロマンを求めて～」
- 昭和 56(1981)年 【自然史】 5月 北九州市立自然史博物館が八幡駅ビルの2・3・4階を仮施設として開館 (5/2)
- 昭和 58(1983)年 【考古】 8月 北九州市立考古博物館開館 九州最初の考古学専門博物館として小倉北区金田  
一丁目に開館 (8/1)
- 【歴史】 10月 特別展「北九州のまつり芸能」
- 昭和 59(1984)年 【自然史】 9月 北九州市と大連市の友好都市締結5周年記念として、中国大連市の大連自然博  
物館で「世界の昆虫」展を開催
- 【歴史】 10月 特別展「北九州甲冑展～よろい・かぶとの歴史～」
- 【自然史】 12月 響灘沖から巨大珪化木の引き上げ
- 昭和 60(1985)年 【歴史】 10月 特別展「小倉藩創始 細川家の歴史展」
- 昭和 61(1986)年 【自然史】 8月 開館5周年記念特別展「中国の動物と恐竜の世界展」
- 昭和 62(1987)年 【歴史】 10月 特別展「わが町の宝 北九州市の指定文化財展」
- 昭和 63(1988)年 【考古】 8月 開館5周年記念特別展「北九州の中国陶磁展」
- 平成 2(1990)年 【歴史】 10月 特別展「関門の潮流展～翔けぬけた鎌倉武士たち～」
- 平成 4(1992)年 【自然史】 3月 開館10周年記念出版物として「山田緑地の自然」を発行
- 平成 5(1993)年 【考古】 4月 考古博物館友の会発足
- 【考古】 10月 開館10周年記念特別展「終末期の古墳展」
- 平成 7(1995)年 【考古】 5月 展示解説ボランティア制度発足
- 【歴史】 8月 戦後50周年記念特別展「北九州平和資料展～戦時下の市民の暮らし～」
- 平成 8(1996)年 【自然史】 7月 展示解説ボランティア制度発足
- 【総合】 10月 「東田地区文化施設整備構想検討委員会」(委員長 有馬朗人 東京大学名誉教  
授)が、「環境」を共通テーマとする自然史、産業科学、環境、歴史の4館か  
らなるシャイン博物館構想「東田地区文化施設の整備の方向について」を報告
- 平成 10(1998)年 【考古】 8月 開館15周年記念特別展「西と東の縄文土器展」
- 平成 11(1999)年 【総合】 6月 (仮称)北九州市立自然史博物館・歴史博物館起工
- 平成 12(2000)年 【歴史】 10月 特別展「伊能忠敬と九州展」
- 平成 13(2001)年 【総合】 3月 (仮称)北九州市立自然史博物館・歴史博物館の建物が竣工
- 平成 14(2002)年 11月 北九州市立自然史・歴史博物館 開館 (小野勇一館長) (11/3)  
開館記念特別展「セイスモサウルスとその世界」(11/3～12/28 : 56日間)
- 平成 15(2003)年 3月 開館記念特別展「COME BACK～よみがえれ文化と生きものたち～」(3/1～4/6 :  
37日間)
- 4月 特別展「ミネラルワールド九州・山口 わたしたちのまわりの鉱物展」(4/26～6/8 : 44日間 :  
25,871人)
- 7月 特別展「発見！虫王国」(7/19～8/31 : 44日間 : 79,687人)
- 9月 特別展「恐竜時代の生き物たち」(9/19～10/13 : 25日間 : 12,828人)
- 10月 特別展「発掘された日本列島 2003」(10/26～11/30 : 36日間 : 11,260人)
- 12月 企画展「絵で見る植物の世界」(12/6～12/23 : 18日間)
- 平成 16(2004)年 1月 企画展「博物館のお正月」(1/2～2/1 : 31日間)

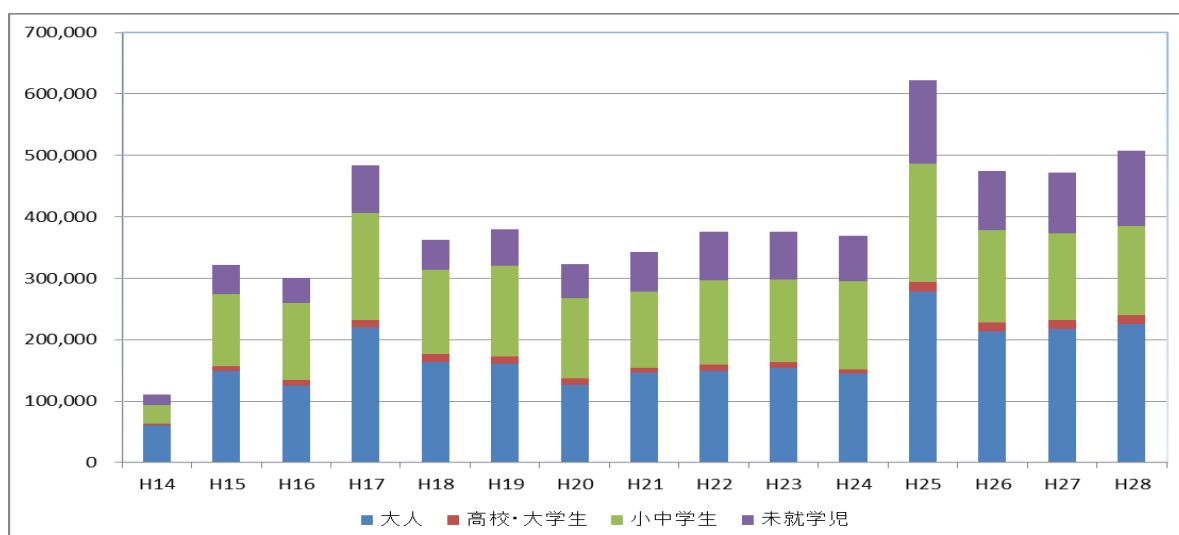
- 平成 17(2005)年
- 3月 企画展「博多祇園山笠展～まつりにみる福岡の歴史～」(3/5～4/11：38日間)
  - 4月 特別展「葛飾北斎展」(4/23～5/23：31日間：14,262人)
  - 7月 特別展「からくり・ロボット体験ランド」(7/17～9/5：51日間：50,712人)
  - 10月 企画展「襤褸の世界～堀切辰一・布のいのち見つめて～」(10/8～11/28：52日間)
  - 1月 特別展「古代都市誕生～飛鳥時代の仏教と国づくり～」(1/2～2/20：50日間：11,590人)
  - 3月 特別展「なぜ？なに？動物ワールド」(3/19～5/8：51日間：26,638人)
  - 7月 特別展「生きもの大集合 世界の両生・爬虫類展」(7/16～9/4：51日間：76,623人)
  - 10月 企画展「鶏民芸品展～秋篠宮コレクション～」(10/8～11/20：44日間) 入館者100万人達成！(10/26)
  - 11月 特別展「大名細川家～文と武の軌跡～」(11/18～12/11：24日間：3,739人)
  - 12月 特別展「恐竜博2005～恐竜から鳥への進化～」(12/23～3/31：99日間：207,397人)
- 平成 18(2006)年
- 4月 企画展「化石王 三葉虫」(4/29～5/28：30日間)
  - 7月 特別展「昆虫ワールド・カップ2006」(7/15～9/3：51日間：76,008人)
  - 9月 企画展「アイヌ文様の美～線のいのち、息づくかたち～」(9/23～11/26：65日間)
  - 12月 特別展「驚異の地下帝国 始皇帝と彩色兵馬俑展～司馬遷『史記』の世界～」(12/14～3/31：104日間：63,811人)
- 平成 19(2007)年
- 4月 企画展「有明海 干潟を育む生き物と文化～中尾勘悟写真展～」(4/15～5/6：22日間)
  - 7月 開館5周年記念特別展「世界最大の翼竜展～恐竜時代の空の支配者～」(7/7～9/2：58日間：96,103人)
  - 10月 開館5周年記念特別展「修験の歴史と自然～西日本の山の信仰～」(10/12～11/11：31日間：2,580人)
  - 12月 特別展「フェアブルにまなぶ」(12/22～2/11：52日間：18,658人)
- 平成 20(2008)年
- 3月 入館者200万人達成！(3/22) 企画展(開館5周年記念事業)「5年間のあゆみ展」(3/22～4/6：16日間)
  - 4月 企画展「絵で見る植物界の多様性 原田英子植物画展」(4/19～5/11：23日間)
  - 7月 北九州市・仁川広域市姉妹都市提携20周年記念展「近代北九州百年の歩み」を仁川広域市立博物館で開催(7/19～9/21：65日間) 特別展「シーラカンス展 ブラジルの化石と大陸移動の証人たち」(7/12～8/31：51日間：56,360人)
  - 8月 北九州市・仁川広域市姉妹都市提携20周年記念展「開港場仁川の情景」(8/2～10/5：65日間)
  - 10月 特別展「美しき九州の旅～「大正広重」初三郎がえがくモダン紀行～」(10/11～11/30：51日間：6,659人)
- 平成 21(2009)年
- 1月 特別展「小倉のお殿さま～小笠原家と城下町～」(1/2～2/8：38日間：6,513人)
  - 3月 企画展「ひとと海のものごたがり」(3/1～5/10：71日間)
  - 5月 企画展「自然史友の会って何？ 友の会30年のあゆみと活動」(5/23～6/14：23日間)
  - 7月 特別展「恐竜ラボ2009～よみがえれ！恐竜ワールド」(7/18～8/31：45日間：64,628人)
  - 9月 特別展「世界遺産ナスカ 地上絵の謎」(9/19～11/23：66日間：30,266人)
- 平成 22(2010)年
- 1月 特別展「布のこころ 受け継がれる母の想いとくらしの美」(1/2～2/21：51日間：6,567人)
  - 2月 中国大連市の旅順博物館と友好交流協定を締結(2/6)
  - 3月 特別展「どうぶつ大集合！肉食系？草食系？ なにをたべているのかな？」(3/20～5/30：72日間：28,327人)
  - 4月 伊藤明夫館長が就任
  - 7月 特別展「昆虫大接近！～みんなであそぼう・虫たちの森～」(7/17～9/5：51日間：71,641人)
  - 10月 特別展「禅寺広寿山の名宝～小倉にひらいた中国文化の華～」(10/9～11/28：51日間：4,881人)
  - 11月 仁川広域市立博物館、旅順博物館と「東アジア友好博物館に関する合意書」調印(11/6)
- 平成 23(2011)年
- 1月 特別展「古代メキシコ・オルメカ文明展 マヤへの道」(1/2～3/31：89日間：22,598人) 入館者300万人達成！(1/15)

	2月	入館者 300 万人達成記念「ありがとう祭」(2/11～13：3 日間)
	4月	特別展「エビとカニのふしぎ 杉浦千里博物画の世界」(4/23～5/31：39 日間：19,297 人)
	7月	特別展「世界の両生類・爬虫類大集合！」(7/16～9/4：51 日間：74,797 人)
	10月	特別展「大連・モダンの風景 旅順博物館所蔵大連古写真展／鉄道展～あじあ号から新幹線へ～」(10/7～12/11：66 日間：11,493 人)
平成 24(2012)年	12月	特別公開「小惑星探査機『はやぶさ』帰還カプセル」(12/22～12/25：4 日間：11,158 人)
	1月	特別展「大内文化と北九州 戦国の世に花開く雅の世界」(1/2～2/12：42 日間：4,559 人)
	3月	特別展「アンモナイトのふしぎ～首長竜やモササウルスとの戦い～」(3/10～5/6：58 日間：25,121 人) 同時開催「みんなで救った被災標本展」(同期間：6,857 人)
	7月	特別展「対決！恐竜展」(7/14～9/23：72 日間：102,921 人)
	10月	特別展「いのちのたび博物館 10 年のあゆみ～とおきのコレクションが勢ぞろい～」(10/20～12/2：44 日間：30,283 人)
	11月	開館 10 周年記念行事 (11/3～4)
	12月	リニューアル工事閉館 (12/3～3/22)
平成 25(2013)年	3月	リニューアルオープン (3/23)
	4月	北九州市制 50 周年記念特別展「北九州市の宝もの」(4/20～6/16：58 日間：30,740 人)
	7月	北九州市制 50 周年記念特別展「世界の昆虫展」(7/13～9/1：51 日間：125,805 人) 入館者 400 万人達成！(7/25)
	9月	北九州市制 50 周年記念特別展「邪馬台国が見える!! 古代日本の原風景」(9/14～11/4：52 日間：20,990 人)
	12月	北九州市制 50 周年記念特別展「仁川広域市立博物館・旅順博物館の名品展」(12/21～28, 1/2～2/11：49 日間：24,852 人)
平成 26(2014)年	3月	特別展「まるごと猫展」(3/15～6/1：79 日間：54,700 人) 年間入場者 60 万人超達成！(3/31：622,701 人。過去 10 年間 [H15～24] の最多は平成 17 年度 483,495 人で、平均は 363,379 人)
	7月	特別展「THE モンスター展～自然界の怪物たち～」(7/19～9/23：67 日間：117,585 人)
	11月	特別展「メタルズ！～変容する金属の美～」(11/1～12/23：53 日間：11,448 人)
平成 27(2015)年	3月	特別展「地球からの贈り物～石の美と魅力～」(3/21～5/10：51 日間：26,182 人)
	4月	上田恭一郎館長が就任
	7月	入館者 500 万人達成！(7/4) 入館者 500 万人達成記念特別展「スペイン奇跡の恐竜たち」(7/11～9/23：75 日間：102,123 人)
	10月	入館者 500 万人達成記念特別展「医は仁術～解体新書から iPS 細胞まで～」(10/10～1/11：90 日間：20,058 人)
平成 28(2016)年	1月	特別展「大正・昭和の暮らしと風景～版画に見る／布が語る～」(1/23～2/28：37 日間：6,535 人)
	3月	特別展「ふしぎの教室～よみがえる学校標本たち～」(3/19～5/15：58 日間：30,891 人)
	7月	特別展「恐竜博 2016」(7/9～9/4：58 日間：125,153 人)
	10月	特別展「関門幕末維新伝」(10/1～11/27：58 日間：15,327 人)
平成 29(2017)年	1月	特別展「発掘された日本列島 2016」(1/2～2/19：49 日間：10,826 人)
	3月	特別展「ホントはすごい！どうぶつ展～飛ぶ！走る！泳ぐ！～」(3/18～5/14：58 日間 50,594 人)

## 6. 入館者の状況

	年度	大人	高校・大学生	小中学生	未就学児	年計	累計
入館者 総数 (人)	14	60,946 (55.1%)	2,677 (2.4%)	29,903 (27.0%)	17,096 (15.5%)	110,622 (100%)	162,527
	15	148,376 (46.2%)	7,950 (2.5%)	117,407 (36.5%)	47,692 (14.8%)	321,425 (100%)	483,952
	16	124,591 (41.5%)	9,262 (3.1%)	125,566 (41.8%)	40,644 (13.6%)	300,063 (100%)	784,015
	17	220,645 (45.6%)	11,699 (2.4%)	173,303 (35.9%)	77,848 (16.1%)	483,495 (100%)	1,267,510
	18	163,725 (45.2%)	12,630 (3.5%)	137,387 (37.9%)	48,549 (13.4%)	362,291 (100%)	1,629,801
	19	160,194 (42.2%)	12,771 (3.4%)	147,601 (38.9%)	58,881 (15.5%)	379,447 (100%)	2,009,248
	20	125,898 (39.0%)	10,487 (3.2%)	131,344 (40.7%)	54,997 (17.2%)	322,726 (100%)	2,331,974
	21	145,843 (42.5%)	8,151 (2.4%)	124,106 (36.1%)	65,290 (19.0%)	343,390 (100%)	2,675,364
	22	148,752 (39.6%)	10,516 (2.8%)	137,441 (36.6%)	78,881 (21.0%)	375,590 (100%)	3,050,954
	23	154,803 (41.2%)	8,933 (2.4%)	134,619 (35.8%)	77,299 (20.6%)	375,654 (100%)	3,426,608
	24	144,271 (39.0%)	7,267 (2.0%)	143,409 (38.8%)	74,764 (20.2%)	369,711 (100%)	3,796,319
	25	277,499 (44.6%)	16,837 (2.7%)	191,914 (30.8%)	136,451 (21.9%)	622,701 (100%)	4,419,020
	26	214,140 (45.1%)	13,880 (2.9%)	150,867 (31.8%)	96,052 (20.2%)	474,939 (100%)	4,893,959
	27	216,842 (45.9%)	14,645 (3.1%)	141,525 (30.0%)	99,377 (21.0%)	472,389 (100%)	5,366,348
	28	224,878 (44.3%)	15,445 (3.0%)	144,379 (28.4%)	123,301 (24.3%)	508,003 (100.0%)	5,874,351

※平成14年度は、11/3～11/10 無料期間 51,905 人を累計に含む。  
 ※平成24年度は、12/3～3/22 が改装工事で休館。



## 7. 視察受け入れ状況

### 平成 28 年度 視察訪問受け入れ状況

No	月日	申請者	訪問者・団体	人数
1	4月14日	北九州フィルム・コミッション	タイ教育関係者	7
2	5月2日	わっしょい百万夏まつり振興会	釜山国際交流財団	35
3	5月19日	福岡県青少年科学館	科学教育グループ職員	4
4	7月8日	産業経済局商業・サービス産業政策課	政令指定都市商業担当課長ほか	28
5	7月1日	北九州市観光協会	環境修学旅行学生ガイド研修生	10
6	7月5日	産業経済局観光にぎわい部	マスコミ倫理懇談会協議会事務局	2
7	7月21日	企画調整局国際部アジア交流課	大連市訪問団	35
8	7月22日	産業経済局観光課	釜山広域市観光 MICE 課ほか	9
9	7月29日	名護博物館	名護市教育委員会教育次長	1
10	8月3日	企画調整局地方創生推進室	企画調整局地方創生推進室職員	3
11	8月31日	大韓民国国立夫餘博物館	大韓民国国立夫餘博物館視察団	5
12	9月10日	企画調整局国際部	大連現代博物館訪問団	5
13	9月25日	西日本産業貿易コンベンション協会	海外 MICE バイヤー	10
14	10月5日	北海道むかわ町	北海道むかわ町職員	1
15	10月18日	北九州フィルム・コミッション	タイ王国文化・スポーツ交流研修生	31
16	11月1日	かごしま環境未来財団	かごしま環境未来財団職員	4
17	11月8日	大分県生活環境部	大分県生活環境部自然保護推進室	1
18	11月12日	産業経済局観光課	H.I.S アジア諸国代表者	14
19	12月19日	上下水道局海外事業課	ハイフォン都市環境事業研修参加者	19
20	12月3日	九州国立博物館	福岡県立北九州高等学校生徒	4
21	2月3日	国立民族学博物館	国立民族学博物館職員	3
22	2月16日	国立科学博物館	国立科学博物館事業推進部長ほか	3
3	3月1日	呉市海事歴史科学館	呉市海事歴史科学館学芸課職員	2
24	3月14日	兵庫県立考古博物館	兵庫県立考古博物館職員	2
25	3月20日	大東文化大学教職課程センター	大東文化大学教職課程センター職員	1
26	3月28日	産業経済局観光課	旅行代理店 JTB 九州鹿児島支店ほか	6
27	3月28日	大韓民国華城市公園局	華城市公園局兼生態生物多様性センター職員	5

合計 250

## 8. 広報・報道実績

### (1) 平成 28 年度特別展関連広報・報道状況記録

#### 1) 春の特別展「ふしぎの教室～よみがえる学校標本たち～」関連 (H28.4.1 分から)

ア)	新聞	4 誌	50 件
イ)	雑誌等	9 誌	11 件
ウ)	テレビ	3 社	27 件
エ)	ラジオ	4 社	14 件

#### 2) 夏の特別展「恐竜博 2016」関連

ア)	新聞	6 誌	180 件
イ)	雑誌等	16 誌	23 件
ウ)	テレビ	12 社	122 件
エ)	ラジオ	6 社	39 件

#### 3) 秋の特別展「関門幕末維新伝」関連

ア)	新聞	4 誌	125 件
イ)	雑誌等	10 誌	14 件
ウ)	テレビ	1 社	38 件
エ)	ラジオ	1 社	3 件

#### 4) 冬の特別展「発掘された日本列島 2016」関連

ア)	新聞	4 誌	118 件
イ)	雑誌等	2 誌	2 件
ウ)	ラジオ	1 社	2 件

#### 5) 春の特別展「ホントはすごい！ どうぶつ展～飛ぶ！走る！泳ぐ！～」関連 (H29.3.31 分まで)

ア)	新聞	4 誌	40 件
イ)	雑誌等	12 誌	12 件
ウ)	テレビ	1 社	28 件
エ)	ラジオ	3 社	31 件

### (2) 平成 28 年度その他広報・報道状況記録

ア)	新聞	4 誌	51 件
----	----	-----	------



## 9. 特別展

### (1) 「ふしぎの教室～よみがえる学校標本たち～」

**期 間**：平成 28 年 3 月 19 日（土）～平成 28 年 5 月 15 日  
58 日間（前年度からの継続事業）

**会 場**：ギャラリー館

**入 場 料**：大人 500 円（団体 400 円）、高・大生 300 円（同 240 円）、小・中生 200 円（同 160 円）、未就学児無料

**観覧者数**：30,891 名（前年度入場者含む）

**担当学芸員**：馬場 稔、宮元香織、原田智也

**主 催**：北九州市立いのちのたび博物館、毎日新聞社

**後 援**：福岡県教育委員会、NHK 北九州放送局

#### 概 要

かつて学校の資料室には豊富な標本が整備されていた。近年、その利用の機会が減少しており、学校での保管も困難になりつつある。当館は可能なかぎりこれらの標本を受け入れてその有効利用に努めており、この特別展では、近年では入手しにくくなっている種類やおどろくほど巧妙に作られた標本などを、博物館が入手した新しい資料とともに紹介した。

木造校舎を模した会場造作とし、実際に学校で利用されていた標本であることから年配の来館者には懐かしさを、若い世代には新鮮な驚きを感じてもらえることができたものと思われる。

#### 主な展示標本

生きものの多様性を示す「動物のふしぎ」、からだの中をつくりを探る「からだのふしぎ」、標本から環境の変化を考える「植物のふしぎ」、地球のなりたちを実感する「大地のふしぎ」、そして、生徒たちによって収集・保存された歴史的な資料を紹介する「むかしのふしぎ」と、大きく五つのコーナーで展示を構成した。

100 年以上も前に捕獲されたクロツラヘラサギ剥製標本など今では希少になっている種類をはじめ各分類群の代表的な標本、様々な動物の解剖標本や骨格標本・組織標本、1900 年代および 1950 年代に採集された植物標本、南極の石や金銀鉱石等貴重な標本を含む多数の岩石・鉱物、梅花石やヤマトオサガニなど地元で発掘された化石、そして高等学校の生徒たちが発掘した考古学資料など、300 点以上の標本を展示した。全長 3m をこえる巨大なホッキョクグマ毛皮など市民から寄贈された資料もあわせて紹介した。

どの年代にも楽しんでいただけるように、触ることができる標本、土器パズル、クイズラリーやおりがみなど、参加型の企画も準備した。

#### 関連事業

会期中「ナイトミュージアム」2 回のほか、会場にて「特別授業」と題する学芸員による模擬授業（18 回）、アンモナイトのレプリカや勾玉づくりなどのワークショップ（12 回）、室内講座「身近に感じる「からだのふしぎ」～フライドチキンから知る恐竜の骨～」（1 回）など展示以外でも楽しめるイベントを合計 31 回実施した。

（馬場 稔）



## (2)「恐竜博 2016」

**期 間**：平成 28 年 7 月 9 日（土）～平成 28 年 9 月 4 日（日）  
58 日間

**会 場**：ギャラリー館、オープンギャラリー、ガイド館

**入 場 料**：大人 900 円（団体 720 円）、高・大生 600 円（同 480 円）、小・中生 400 円（同 320 円）、未就学児無料

**観覧者数**：125,153 人

**担当学芸員**：大橋智之

**主 催**：北九州市立いのちのたび博物館、毎日新聞社、RKB  
毎日放送、朝日新聞社

**特別協力**：国立科学博物館

**後 援**：文部科学省、外務省、アメリカ合衆国大使館、イタ  
リア大使館、カナダ大使館、中国大使館、福岡県教  
育委員会、NHK 北九州放送局、日本古生物学会

**特別協賛**：全労済福岡県本部

**協 賛**：凸版印刷、トヨタ自動車

**協 力**：日本航空、アリタリア-イタリア航空、ビッグベアーズフーズサービス

**学術協力**：シカゴ大学、レイモンド・M・アルフ古生物学博物館、アルゼンチン自然科学博物館、ミラノ市立  
自然史博物館、アルバータ大学、ロイヤルサスカチュワン博物館、山東省天字自然博物館、中国科  
学院古脊椎動物・古人類研究所、チリ国立地質鉱山局、フランス国立自然史博物館、ベルギー王立  
自然博物館、サヴァナケート恐竜博物館、ロシア科学アカデミーシベリア支部天然資源・環境・氷  
雪学研究所、岩手県立博物館、神流町恐竜センター、群馬県立自然史博物館、広野町教育委員会、  
福島県立博物館、北海道大学総合博物館、むかわ町穂別博物館



### 概 要

恐竜研究の最新成果を「起源」「植物食」「飛翔」「水中進出」「赤ちゃん」「恒温・鳴き声」をトピックに日本初公開の実物化石を含む標本で紹介。史上最大の肉食恐竜スピノサウルスは最新研究に基づき水中生活に適応した可能性を示唆する新復元での展示。貴重な実物化石の他、研究成果に基づいた復元の骨格レプリカをはじめ、最新学説を取り入れた復元 CG 映像や第一線の研究者による解説映像など質・量ともに最大級の展示構成。

### 主な展示標本

史上最大の肉食恐竜スピノサウルス新復元全身骨格レプリカ、ティラノサウルス全身骨格レプリカ、保存状態が良く世界的に貴重な恐竜の赤ちゃん実物化石、日本初公開の恐竜骨格レプリカなど。

### 関連事業

7 月 9 日（土）、8 月 30 日（火）恐竜博 2016 監修の真鍋 真氏（国立科学博物館）の特別講演会

7 月 21 日（木）、8 月 10 日（水）にナイトミュージアム

7 月 16 日（土）、30 日（土）、8 月 6 日（土）、20 日（土）に担当学芸員のギャラリートーク

会期中に特別展内でティラノスタンプラリー、熊本地震で被災した御船町恐竜博物館への義援金募集のほか、8 月 24 日（水）に熊本県御船町マスコットキャラクター来館イベントを開催。

（大橋智之）

### (3) 「関門幕末維新伝」

**期 間**：平成 28 年 10 月 1 日（土）～平成 28 年 11 月 27 日（日）  
58 日間

**会 場**：ギャラリー館

**入 場 料**：大人 500 円（団体 400 円）、高・大生 300 円（同 240 円）、  
小・中生 200 円（団体 160 円）、未就学児無料

**観覧者数**：15,327 人

**主 催**：北九州市立いのちのたび博物館、毎日新聞社

**後 援**：福岡県教育委員会、NHK 北九州放送局

**協 力**：岩国徴古館、岡山大学附属図書館、唐津市教育委員会、  
黒崎歴史ふれあい館、真田宝物館、下関市立東行記念館、  
下関市立歴史博物館、大蔵院、長登銅山文化交流館、  
萩博物館、福岡県立図書館、福岡市博物館、みやこ町歴史  
民俗博物館、毛利博物館、八代市立博物館、柳川古文書館、  
山口県文書館

**担当学芸員**：日比野利信、守友 隆

#### 概 要

近代日本の出発点となった明治維新。関門海峡は 2 度にわたって戦場となるなど、重要な舞台となった。本展は関門海峡に焦点を当て、小倉藩・福岡藩・長州藩 3 藩の動向を中心に、ゆかりの地から関係資料を集成し、知られざる明治維新のドラマをえがいた。明治維新 150 年を前に、また「明治日本の産業革命遺産」の世界文化遺産登録 1 周年を記念して、北部九州ほぼ初の本格的な明治維新展として開催した。

2016 年が長州戦争で小倉藩が小倉城を自焼して 150 年にあたることから、なぜ、どのように小倉城は自焼にいたったか詳細に明らかにした。

#### 関連事業

講演会「幕長戦争の実像」10 月 8 日（土）講師：三宅紹宣氏（広島大学名誉教授）

ハロウィン☆ナイトミュージアム 10 月 29 日（土）

ギャラリートーク 会期中の日曜日 9 回実施

特別ギャラリートーク 11 月 3 日（木・祝）

（小倉城模型制作者の中学生へのインタビューを含む）

展示解説 希望する団体・グループに対して 13 回実施

（日比野利信）



会場入口付近  
（絵巻アニメーション投影とトリックアート）



展示会場

#### (4) 「発掘された日本列島2016」

**期 間:**平成29年1月2日(月・祝)～平成29年2月19日(日)  
49日間

**会 場:**ギャラリー館、オープンギャラリー

**入 場 料:**大人500円(団体400円)、高・大生300円(同240円)、  
小・中生200円(同160円)、未就学児無料

**観覧者数:**10,826人

**主 催:**文化庁、北九州市立いのちのたび博物館、西日本新聞  
社、全国新聞社事業協議会

**共 催:**毎日新聞社

**協 力:**全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会、全国埋蔵文  
化財法人連絡協議会、公益財団法人元興寺文化財研究所、  
共同通信社、九州大学埋蔵文化財調査室、古賀市教育委  
員会、福岡市埋蔵文化財センター、福津市教育委員会、  
宗像市教育委員会

**後 援:**全国史跡整備市町村協議会、福岡県教育委員会、「宗像・沖ノ島と関連遺産群」世界遺  
産推進会議、NHK北九州放送局

**担当学芸員:**原田智也、松井和幸

#### 概 要

わが国では、毎年全国で8,000件近くもの埋蔵文化財の発掘調査が行われている。しかし一般的にはマスコミ報道などにより、その成果の一部を間接的に知るにとどまっている。そこで、近年の発掘調査の中でも特に注目される出土品を中心に紹介し、多くの人々が埋蔵文化財に親しみ、更に埋蔵文化財の保護に関する理解を深める機会となる展覧会を開催した。

また地域展示として、北部九州地方における近年の発掘事例や調査成果から、世界遺産登録を目指す「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群との関連遺跡・遺物を中心に展示を行った。

#### 関連事業

講演会『徹底解説「発掘された日本列島2016」』1月21日(土)

講師：川畑 純(文化庁記念物課 文部科学技官)

ギャラリートーク・火おこし体験 会期中の土曜日に各5回ずつ実施

(原田智也)



特別展入口付近の縄文土器立体展示状況



ギャラリー館内展示状況

## (5) 「ホントはすごい！ どうぶつ展～飛ぶ！走る！泳ぐ！～」

**期 間**：平成 29 年 3 月 18 日（土）～平成 29 年 5 月 14 日（日）  
58 日間（次年度への継続事業）

**会 場**：ギャラリー館、オープンギャラリー

**入 場 料**：大人 500 円（団体 400 円）、高・大生 300 円（同 240 円）、  
小・中生 200 円（同 160 円）、未就学児無料

**観覧者数**：50,594 名（次年度終了時点）

**担当学芸員**：武石全慈、馬場 稔

**主 催**：北九州市立いのちのたび博物館、毎日新聞社

**後 援**：福岡県教育委員会、NHK 北九州放送局

**特別協力**：北九州・魚部

**協 力**：大阪市立自然史博物館、北九州市立総合農事センター、  
岐阜大学応用生物科学部、滋賀県立琵琶湖博物館、  
名古屋大学大学院理学研究科、灰谷 慈（秋吉台自然  
動物公園サファリランド）、和田直己（山口大学共同  
獣医学部生体システム科学）



### 概 要

生物の移動方法には、翼や翅によって空中を「飛ぶ」、四肢を用いて陸上を「走る」、鱗や体全体を使って水中を「泳ぐ」などがある。この展示会では、これらの移動方法で特に卓越した能力を発揮する生物を中心に上げ、そのメカニズムや生活の仕方、形態等を紹介した。

### 主な展示標本

「飛ぶ!」（飛ぶ!、滑空する!、跳ぶ!、風を利用する植物に区分）、「走る!」、「泳ぐ!」の3コーナーで構成した。300km/時以上で飛ぶハヤブサ、8,000m 級のヒマラヤを越えるアネハヅル、体長の100倍以上もジャンプするネコノミ（400倍拡大模型も展示）、瞬間速度が100km/時を越えて疾走するチーター、人を乗せて60km/時以上で走るサラブレッド、魚類最速で泳ぐバショウカジキなど148種、最終的に300点を超える標本を展示した。市立総合農事センターで飼育され33歳の木曾馬最長寿で亡くなった「幸春号（愛称さっちゃん）」の剥製も紹介した。

また、北九州・魚部による日本のドジョウ類全33種・亜種（1亜種を除き生体展示）を紹介する「大どじょう展」も合わせて開催した。

### 関連事業

会期中、「ナイトミュージアム」を2回、「タネのグライダーづくり」のワークショップを8日間で16回、「ドジョウ博士講演会」・「びわ湖博士講演会」を各1回、「魚部員ドジョウ語り」の講話を3回実施した。

(武石全慈)



## 10. 企画展など

### (1) 「博物館でふしぎの歴史発見」

**期 間**：平成 28 年 4 月 16 日（土）～平成 28 年 6 月 19 日（日）

**会 場**：ぼけっとミュージアムNo.9・10・11

**入場料**：常設展入場料で観覧可能

**担 当**：松井和幸、日比野利信、守友 隆、  
宮元香織、原田智也、中西義昌

#### 概 要

春の特別展「ふしぎの教室～よみがえる学校標本たち～」(3/19～5/15) に連動した企画展。博物館の所蔵品から歴史のホットな話題に関する資料や公開する機会の少ない逸品などを精選して、①「日本刀のふしぎ」、②「小倉藩と小倉城のふしぎ」、③「ふしぎの博物館コレクション」の 3 つのテーマでわかりやすく紹介した。

(日比野利信)



### (2) 「企救の国の青銅器文化」

**期 間**：平成 28 年 7 月 3 日（日）～平成 28 年 11 月 6 日（日）

**会 場**：ぼけっとミュージアムNo.9・10・11

**入場料**：常設展入場料で観覧可能

**担 当**：原田智也、松井和幸

#### 概 要

重留遺跡（小倉南区重住）から出土した、弥生時代後期の青銅製祭器である広形銅矛は、同様のマツリの道具が住居の中から出土した国内で唯一の例であることや、住居の中で複数回にわたり広形銅矛を埋納していたことが学術的に高く評価され、考古資料として北九州市で初めて、国の重要文化財に指定された。

これを記念して、本展では重留遺跡出土広形銅矛と、本市出土の銅鏡・銅剣などの青銅器を合わせて展示を行うとともに、芦屋釜の里で復元铸造した広形銅矛を展示して、本市の弥生時代の青銅器文化を紹介した。



(原田智也)

### (3) 東アジア友好博物館第1回巡回展「着物が語る日本の心」

**期 間**：平成28年11月12日（土）～平成28年12月18日（日）

**会 場**：ぽけっとミュージアムNo9・10・11

**入場料**：常設展入場料で観覧可能

**担 当**：松井和幸、上野晶子

#### 概 要

2010年11月に、いのちのたび博物館は韓国の仁川広域市立博物館、中国大連市の旅順博物館と「東アジア友好博物館に関する合意書」を結んで、さまざまな交流事業を進めてきた。本展示もその一環で、当館が企画し、当館での展示終了後、旅順博物館、仁川広域市立博物館に巡回した。

展示内容は、当館が所蔵している庶民生活研究家堀切辰一氏が全国から収集した古布コレクション「襤褸（らんる）」33点と、江戸時代の初め、17世紀から小倉を中心に織られた綿織物「小倉織」について豊前小倉織研究会が収集した古布、研究会による復元品や現代の創作品を中心に展示した。

なお本事業については、平成28年度文化庁「地域の核となる美術館・博物館支援事業」の助成を受けた。

(松井和幸)



### (4) ユネスコ無形文化遺産登録記念展「戸畑祇園大山笠行事」

**期 間**：平成29年1月2日（月・祝）～平成29年2月20日（月）

**会 場**：ぽけっとミュージアムNo9・10

**入場料**：常設展入場料で観覧可能

**担 当**：日比野利信

#### 概 要

2016年12月1日、山車が登場する全国33の祭りが「山・鉦・屋台行事」として、ユネスコの「無形文化遺産」に登録された。北九州市の戸畑祇園大山笠行事（国指定重要無形民俗文化財）もその一つである。

祭りの最大の特徴は昼の「幟山笠」が夜の「提灯山笠」に変わることとあり、高さ7m、309個の提灯のゆれる提灯山笠は日本最大規模という。「幟山笠」に掛ける幕類は祇園祭にふさわしい勇壮な武者絵などが金銀糸で刺繍された豪華絢爛なもので、幕末から明治時代にかけて作られた幕類は福岡県の有形民俗文化財に指定されている。

本展では博物館が保管する幕類を中心に展示し、200年以上にわたって祭りを受け継いできた人びとの思いをひもとき、新たにユネスコの無形文化遺産となった祭りの魅力を広く紹介した。

(日比野利信)



## (5) 「変わるわたしたちの暮らし」

**期 間**：平成 28 年 12 月 23 日（金・祝）  
～平成 29 年 3 月 26 日（日・祝）  
**会 場**：ぼけっとミュージアム No.11  
**入場料**：常設展入場料で観覧可能  
**担 当**：中西義昌（歴史課学芸員）  
小林孝幸、堺 未知、関 美幸（普及課 MT）

### 概 要

北九州市立小学校 3 年生の社会科教科書の単元を基に、資料や写真を通して当時の人々の暮らしや道具の変遷を伝える企画展。この展示により、世代を超えた生活のつながりや現在の暮らし・道具について再考することをねらいとした。

展示は以下の 4 つのテーマで構成した。

#### ①昔の暮らし【昭和 20～40 年代の部屋再現】

6 畳程度の居間を再現し、その当時の家具・道具を展示。

#### ②【すこし前の暮らしと道具／昭和 50～60 年代】

2000 年代半ばに生まれた小学校 3 年生にとって昭和 50～60 年代は「すこし前の暮らし」。その頃の暮らしの様子（キッチン・リビングの写真）と道具（カラーテレビ・レコード・ラジカセ・ビデオデッキなど）を展示・紹介し、①と比較できるようにした。

#### ③【道具のうつりかわり】

家具・道具の変遷をパネルで紹介し、実物資料を通して昭和 20～40 年と大正～昭和 10 年の 2 つの時代を比較して考える。道具の中で、現代とは大きく形・名称が変わっている道具などは、現代ではどのように変わっているかを考えることができるように、クイズ形式のキャプションを設置した。

#### ④昔の遊び【ハンズオンコーナー】

小学生以下の子どもを対象にしたハンズオン展示を行った。また、「火のし」と「黒電話」、むかし遊びのコーナーも併せて設置し、現在使用している道具との違いや使い方を考えさせる工夫を行った。

（中西義昌）



## (6) テーマ展「関門幕末維新外伝」

**会 期**：平成 28 年 10 月 1 日（土）～11 月 27 日（日）  
**会 場**：常設展歴史ゾーンテーマ館「江戸時代の北九州」  
**入場料**：常設展入場料で観覧可能  
**担 当**：守友 隆

### 概 要

平成 28 年（2016）は、幕末の慶応 2 年（1866）8 月 1 日の小倉城自焼からちょうど 150 年後にあたる。そうしたメモリアルイヤーということもあり、当館 1 階ギャラリー館では秋の特別展「関門幕末維新伝」を開催した。その関連展示として「関門幕末維新外伝」を常設展歴史ゾーンで行った。タイトルの通り、「正伝」の特別展では触れない、あまり知られていないが北九州市域にとっては重要な事実・逸話を紹介する目的で実施した。

同展では、慶応元年（＝元治 2 年〔1865〕）から明治 4 年（1871）までの期間に焦点をあてた。現北九州市域に藩領のあった小倉藩（小笠原氏）・福岡藩（黒田氏）、そして北九州と関わりの深い五卿のひとり三条実美の動向を中心に、13 点の関係資料を展示した。

（守友 隆）





### (7) 年末(クリスマス) 展示

**期 間**：平成28年11月26日(土)～12月25日(日)  
(新年祝賀用装飾は平成29年1月15日(日)まで)

**会 場**：常設展恐竜デッキ

**入場料**：常設展入場料で観覧可能

#### 概 要

クリスマスに合わせてトナカイ剥製標本にそりの模型をとりつけ、サンタクロースの衣装を準備して写真撮影が可能ないように設置した。クリスマス後はトナカイ標本を撤去、文言を修正して新年祝賀用の装飾とした。

(馬場 稔)



### (8) 年始(干支) 展示

**期 間**：平成28年12月26日(月)～平成29年1月15日(日)

**会 場**：エントランス

**入場料**：無 料

#### 概 要

平成29年の干支である酉(鳥)にちなみ、ニワトリ類剥製標本を展示した。展示資料は代表的なニワトリの品種である白色レグホン雄、チャボ雌雄、プリマスロック雌雄とした。また、春の特別展の告知をかねてニワトリ類と同じキジ科のヤマドリ(九州北部産亜種アカヤマドリ)雄の剥製標本を展示した。

(馬場 稔)



## 1 1. その他の事業

### (1) 東アジア友好博物館交流事業

当館は北九州市の姉妹都市である韓国・仁川広域市の仁川広域市立博物館、友好都市である中国・大連市の旅順博物館と「東アジア友好博物館に関する合意書」を締結し（平成22年11月5日）、毎年館長会議を開催するとともに、学芸員の派遣や展示交流などを継続的に実施している。平成27年10月の旅順博物館の館長会議では当初5年間としていた事業期間をさらに6年間延長するという合意がなされた。この新たな「合意書」には、主たる事業として隔年での「巡回展」の開催が盛り込まれた。「巡回展」は「東アジアの生活文化（衣・食・住）」を統一テーマとして、各館が所蔵する実物資料を中心に企画展を立ち上げ、他の2館に巡回するもので、平成28年度に北九州が「衣」を、30年度に旅順が「食」を、32年度に仁川が「住」を担当することになった。

平成28年度は、北九州市立いのちのたび博物館が当番館であり、7月12日（火）に実務者会議、11月15日（火）に館長会議を実施した。また11月12日（土）から12月11日（日）まで「着物が語る日本の心」展を開催し、平成29年1月10日（火）から2月5日（日）まで旅順博物館、2月14日（火）から3月19日（日）まで仁川広域市立博物館に巡回展示した。なお小倉織に関しては、会期中に各館2日間、豊前小倉織研究会のメンバー3名の指導により、小倉織のワークショップを実施することが出来た。また当該事業実行委員会を構成する北九州市立大学で、11月16日（水）に「東アジア友好博物館交流記念講演会」（いのちのたび博物館 上田恭一郎館長、仁川広域市立博物館 趙宇星館長、旅順博物館 王振芬館長）と写真パネル展「東アジアの友好都市と博物館」を実施した。

（松井和幸）



館長会議（11月15日）



旅順博物館 展示室（導入部）



仁川広域市立博物館 展示室



仁川広域市立博物館 小倉織ワークショップ

## (2) ジオパーク活動推進事業

平成 27 年度に引き続き、日本ジオパーク認定に向けた取り組みを継続した。本市の貴重な地質遺産の市民への周知を深めるため、より魅力的なジオパーク普及講座の開発・実施やジオサイトを紹介する子ども向けパンフレットの作成などを行った。また、日本ジオパーク認定に必要な地域間ネットワーク構築のため、日本ジオパークネットワーク主催の事業に参加した。

### 主要事業と経過

#### 1) ジオパーク普及講座の実施：

室内講座（1 回実施）

野外観察会（ジオツアー、ジオハイキング：8 回実施、雨天中止 3 回）

参加者合計 238 名

#### 2) 子ども版ジオサイトガイド（平尾台、若松北海岸のジオサイト案内パンフレット）の作成



#### 3) ジオパークホームページの運営 (<http://www.kitakyushu-geo.jp>)、アクセス解析の実施

#### 4) 日本ジオパークネットワーク事業等参加

- ・地球惑星科学連合大会ジオパークセッション、JGN 通常総会等参加（平成 28 年 5 月 22 日～25 日、千葉県千葉市）
- ・第 7 回日本ジオパーク全国大会（伊豆半島大会）参加（平成 28 年 10 月 9 日～11 日、静岡県沼津市）
- ・第 10 回九州ジオパーク連絡会参加（平成 28 年 8 月 31 日～9 月 1 日、大分県東国東郡姫島村）

（太田泰弘、馬場 稔）

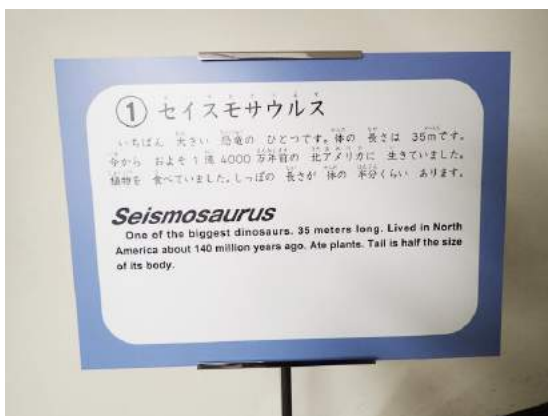
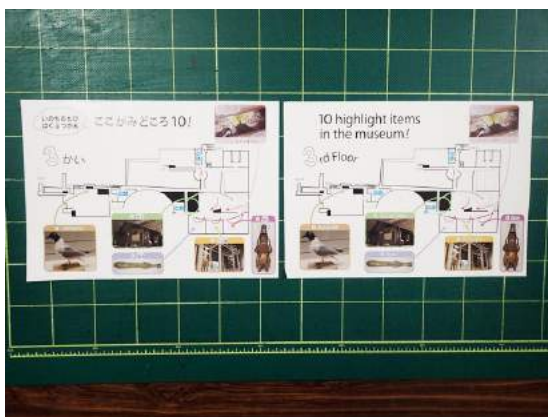
### (3) ユニバーサルミュージアム化事業

より多くの人にわかりやすく快適な展示・館内利用・情報サービスを提供し、地域と連携した博物館に進化することが本事業の目的である。そのためにハード・ソフト両面での各種検証や改善、研修に取り組んでいる。本事業では関係各団体・組織と共同で館内設備やサービスを実証実験で検証し改善を進めている。そのため、意見や要望抽出から実証実験、試験的な運用まで準備に時間を要するテーマも多く、また、本事業が目指すものや趣旨に賛同し協力いただいている関係組織は多様であり、これまでに取り組んできた事業内のテーマ及び要望にはまだ検証や改善が見込めるものが残っている。本年度の事業では主に残されているテーマの整理とそれらの今後の方向性の確認を中心に取り組んだ。

昨年度事業で取り組んだ「展示解説プログラムの開発」で実証実験を行った「わかりやすい日本語（やさしい日本語）と英語」による展示物解説パネルと館内マップについて、試験的な運用を目指し展示室内への恒常的な設置及びマップの配布を想定し、内容や設置場所の確認を行い各パネルと日本語・英語マップを作成した。この展示解説は自然史・歴史ともに5つずつ、当館の見逃せない展示物を日本語・英語で解説したもので、日本語は日本語技能検定のレベルに基づいて文章化・専門家に確認、英語は簡易な表現で英語を母語とする北九州国際交流協会スタッフに確認してもらったものである。

当館の見逃せない10か所の展示物を示すマップを辿ることでそれらを迷わずに見学することが可能な展示コースとして活用できる。当館は展示見学コースを設定しておらず、本事業内の他、これまでも来館者から展示見学コースの要望もあったことから、「展示解説プログラムの開発」事業の中で多言語対応の他、展示見学コースの提供についても対応できる可能性がある。次年度より試験的に運用することを計画している。

(大橋智之)



#### (4) 博物館ネットワークによる未来へのレガシー継承・発信事業

博物館ネットワークによる未来へのレガシー継承・発信事業は、博物館の国内外のネットワークを活用し、単独の博物館ではなし得ない新たな取り組みを広め、日本が誇る貴重な未来へのレガシーを継承・発信し、博物館の振興を図ることを目的とし、文部科学省生涯学習局が実施委託の公募を開始した事業である。

本公募に対し、兵庫県立人と自然の博物館が事業推進担当館となり北海道博物館、栃木県立博物館、三重県立博物館、大阪市立自然史博物館、橿原市昆虫館および当館が実行委員会を組織し、課題「自然史系博物館の収蔵庫を見える化する技法の体系化と実践」を申請し、採択された。

本課題に係る事業として、3回の実行委員会を実施するとともに、平成28年11月19日から12月4日に、「日本文化を育んだ自然 Where culture meets nature」と題した実験展示を、京都市の町家である花洛庵（京都市重要文化財）において実施し、約980名の方にご覧いただくことができた。本展示会は、文化の背景にある自然のめぐみを、多様な分類群に渡る実物資料を用いて、博物館外で如何に伝えることができるかを実験したもので、テーマの設定の仕方や資料の見せ方などに、効果や課題を抽出することができた。

また、自然史系博物館の収蔵庫が抱える課題とその解決方策の検討に向け、ヨーロッパやアジアの10施設の事例調査を実施した。当館からは、蓑島悠介学芸員がチェコ国立博物館を訪問し、収蔵展示状況等の視察を実施した。平成29年2月3日には、大阪市立自然史博物館において、本事例調査の成果報告などを目的とした公開ワークショップ「海外の自然史博物館における収蔵庫と収蔵展示を考える」を実施し、収蔵展示の意義や問題点等、増加する資料の適切な保存管理方法に関する活発な討議が行われた。

(真鍋 徹・蓑島悠介)



実験展示を実施した花洛庵



展示風景（着物と着物に描かれた鳥類の展示）



チェコ国立博物館（自然史部門）

## 12. 教育普及活動

### (1) 博物館セカンドスクール事業

博物館が第2の学校(教室)として、子どもたちの来館機会を創出し、新しい発見や感動を胸に理科・社会科への学習意欲を持たせる仕組みづくりを行うため、

- 1) 博物館への誘致事業
- 2) 学校教育支援事業
- 3) 家庭教育支援事業

の3つの柱をかかげ、学校教育現場と博物館との結びつきを強めるための事業。

#### 1) 博物館への誘致事業

- 博物館への誘致活動

修学旅行等の団体客を誘致するため学校へのガイドンスDVD、パンフレット類の送付及び旅行会社へのPR活動

- 情報発信による博物館利用の案内

- ・情報誌「いのちのたび」を月1回、保育所(園)・幼稚園向けの情報誌を年2回発行
- ・博物館ホームページ、市政だより等の活用

#### 2) 学校教育支援事業

- 博物館活用資料の整備

各種ガイドブック、ワークシート、スタンプラリーシート、体験活動プログラム資料など

- 体験学習プログラムの提供

化石レプリカづくり、ペットボトル顕微鏡づくり、化石発掘体験、勾玉づくり

- 授業づくり支援

「博物館利用の手引き」の紹介、小学校への出前授業、「昔の道具調べ」「土地のつくりと変化」等の館内授業、ディスカバリーボックスの貸し出し等

- 職場体験学習、教員研修の受け入れ等

- 環境アクティブ・ラーニング(北九州市教育委員会主催の市内小学校4年生を対象とした体験活動)

- その他

北九州市小学校児童科学研究作品展会場等

#### 3) 家庭教育支援事業

- いのちのたび子ども教室(20名を定員として前期8回、後期8回で学芸員による講話や体験学習を実施する。)

- 東田サマースクール(夏休み期間中に、北九州イノベーションギャラリー(KIGS)、環境ミュージアムと合同で全3期の体験学習を実施する。)

#### 【平成28年度 学校関係利用状況】

- 学校関係誘致実績

団体	保・幼	小学校	中学校	高等学校	特別支援	合計
団体数	275	886	132	31	57	1,381
人数	15,768	61,566	11,232	1,503	1,278	91,347

- 学校教育支援事業実績

体験プログラム	レプリカ	顕微鏡	化石発掘	勾玉	合計
団体数	17	4	28	28	77
人数	776	150	1,356	1,277	3,559

授業	昔の道具調べ	土地のつくり	環境体験科	合計
学校数	18	15	28	61
人数	857	1,228	1,277	3,362

○ 家庭教育支援事業実績

講座名	いのちのたび子ども教室	東田サマースクール
回数	前期8回 後期8回	3期
参加者数	各回20名のべ320名	各期25名 計75名

(2) 普及講座

1) 自然史系の普及講座

自然史に親しみ、理解を深めてもらうため各学芸員の専門分野の講座を27回企画した(野外観察会:8回、室内講座:9回、たいけん講座:5回、夏休み教室:2回、バスハイク:3回)。

種別	講座名	開催日	曜日	人数
野外観察会	都市林のモニタリング型植物観察会～春の部	平成28年4月24日	日	11
野外観察会	バードウィーク市民探鳥会	平成28年5月15日	日	32
野外観察会	ジオ・ハイキング「探検!化石の島:藍島」	平成28年5月22日	日	22
野外観察会	ジオ・ハイキング「生きた化石、カプトガニの不思議」	平成28年7月23日	土	28
野外観察会	都市林のモニタリング型植物観察会～夏の部	平成28年7月24日	日	7
野外観察会	ジオ・ハイキング「恐竜時代の大地!皿倉山ウォーキング」	平成28年10月2日	日	14
野外観察会	ズグロカモメを見る!	平成29年2月26日	日	5
野外観察会	ジオ・ハイキング「平尾台を楽しむスペシャル体験!」	平成29年3月26日	日	10
室内講座	恐竜教室「史上最大の肉食恐竜スピノサウルスを知ろう!その1」	平成28年4月23日	土	32
室内講座	恐竜教室「史上最大の肉食恐竜スピノサウルスを知ろう!その2」	平成28年5月21日	土	27
室内講座	恐竜教室「史上最大の肉食恐竜スピノサウルスを知ろう!その3」	平成28年6月11日	土	25
室内講座	昆虫標本作製教室	平成28年6月12日	日	42
室内講座	顕微鏡で見よう!美しい鉱物	平成28年6月19日	日	27
室内講座	【秋の恐竜学】恐竜をもっと楽しく見るホネの話	平成28年10月16日	日	22
室内講座	恐竜すす払い	平成28年12月26日	月	12
室内講座	【冬の恐竜学】恐竜をもっと楽しく見るホネの話	平成29年2月5日	日	26
室内講座	小さな化石にふれてみよう!	平成29年2月11日	土	13
たいけん講座	ジオ体験「ジオの恵み:合馬のたけのこ掘り」	平成28年4月3日	日	43
たいけん講座	「けもの」の毛と骨の観察	平成28年11月20日	日	6
たいけん講座	自然史工作教室 ムササビとタネのグライダー	平成28年12月4日	日	8
たいけん講座	鳥はなぜ飛べる?鳥だこを作って考えよう!	平成28年12月11日	日	33
たいけん公是	いろいろなかたちのアンモナイトにさわってみよう!	平成29年2月12日	日	16
夏休み教室	権現山の昆虫観察会	平成28年7月23日	土	41
夏休み教室	海岸生物の観察	平成28年8月2日	火	56
バスハイク	ジオ・ツアー「化石と大地を楽しむジオツアー」	平成28年5月1日	日	36
バスハイク	ジオ・ツアー「化石発掘!秋吉台ジオツアー!」	平成28年8月7日	日	37
バスハイク	ジオ・ツアー「学芸員とめぐる北九州周辺の化石産地と代表的地層!」	平成28年11月27日	日	35

合計 666

2) 歴史系の普及講座

歴史や文化にかかわる講座を実施し、理解につとめた。連続講座では、より深い学習を求める方々に向けた講座を行った。

種別	講座名	開催日	曜日	人数
室内講座	近世文書読み方入門講座	平成28年4月~平成29年3月	第2水	8
室内講座	近世文書読み方応用講座	平成28年4月~平成28年3月	第4水	41 (のべ492)
歴史探訪講座	北九州の城跡を歩く①長野城跡	平成28年4月23日	土	20
たいけん講座	若武者に变身!	平成28年5月5日	木・祝	50
室内講座	ミニ屏風を作ろう	平成28年8月18日	木	13
歴史探訪講座	北九州の城跡を歩く②小倉城跡	平成28年11月5日	土	18

合計 149

### 3) 自然史・歴史合同の普及講座

「いのたび自然塾」と称して、自然史課・歴史課共同で自然学習園などにおいて自然の恵みと人々の歴史を考えるイベントを行った。

種別	講座名	開催日	曜日	人数
いのたび自然塾	藍のたたき染めでオリジナルエコバッグを作ろう!	平成 28 年 8 月 7 日	日	24
いのたび自然塾	どんぐり祭り! たべよう・あそぼう	平成 28 年 11 月 6 日	日	35
合計				59

### 4) 特別展の普及講座等

特別展に関連した講座等として下記を開催した。

種別	講座名	開催日	曜日	人数
関連イベント	ナイトミュージアム	平成 28 年 4 月 1 日	金	329
関連イベント	特別授業 植物のふしぎ～電子レンジで押し葉づくり～	平成 28 年 4 月 2 日, 4 月 23 日, 5 月 14 日	土	60
関連イベント	勾玉のふしぎ	平成 28 年 4 月 3 日	日	18
関連イベント	特別授業 からだのふしぎ～あたまの骨を比べてみよう～	平成 28 年 4 月 9 日, 4 月 30 日	土	120
関連イベント	ふしぎなねんど「おゆまる」でアンモナイトのレプリカを作ろう	平成 28 年 4 月 10 日, 5 月 8 日	日	326
関連イベント	特別授業 むかしのふしぎ～土器をさわってみよう～	平成 28 年 4 月 16 日, 5 月 7 日	土	40
関連イベント	身近に感じる「からだのふしぎ」～フライドチキンから知る恐竜の骨～	平成 28 年 4 月 17 日	日	17
関連イベント	アンモナイトレプリカづくり	平成 28 年 4 月 24 日	日	20
関連イベント	真鍋真博士の特別講演	平成 28 年 7 月 9 日	土	100
関連イベント	ギャラリートーク	平成 28 年 7 月 16 日, 7 月 30 日, 8 月 6 日, 8 月 20 日	土	約 180
関連イベント	ナイトミュージアム	平成 28 年 7 月 21 日, 8 月 10 日	木・水	1460
関連イベント	真鍋真博士のスペシャルトークショー「対談:最新恐竜学」	平成 28 年 8 月 30 日	火	100
関連イベント	博物館学芸員が語る 知られざる明治維新のドキュメント	平成 28 年 10 月 2 日, 10 月 9 日, 10 月 16 日, 10 月 23 日, 10 月 30 日, 11 月 6 日, 11 月 13 日, 11 月 20 日, 11 月 27 日	日	280
関連イベント	講演会「幕長戦争の実像」	平成 28 年 10 月 8 日	土	225
関連イベント	ハロウィン☆ナイトミュージアム	平成 28 年 10 月 29 日	土	451
関連イベント	ギャラリートーク	平成 29 年 1 月 7 日, 1 月 14 日, 1 月 28 日, 2 月 4 日, 2 月 18 日	土	116
関連イベント	火起こし体験	平成 29 年 1 月 7 日, 1 月 14 日, 1 月 28 日, 2 月 4 日, 2 月 18 日	土	142
関連イベント	講演会「発掘された日本列島 2016」	平成 29 年 1 月 21 日	土	164
関連イベント	タネのグライダーづくり	平成 29 年 3 月 19 日, 3 月 26 日	日	120
合計				4,268

## (3) 博物館実習

### 1) 自然史課博物館実習

学芸員課程の学生を受け入れ、各学芸員が数講座ずつ担当した。5 日間と 10 日間を学生が選択。

\*1 期: 8 月 9 日 (火) ~ 8 月 20 日 (土)、日曜・月曜休講の 10 日間

・人数: 9 名 (うち 3 名は 5 日間)

・所属大学: 福岡大学 4 名、福岡教育大学 2 名、宮崎大学 1 名、山口大学 1 名、岐阜大学 1 名

\*2 期: 8 月 30 日 (火) ~ 9 月 10 日 (土)、日曜・月曜休講の 10 日間

・人数: 8 名

・所属大学: 北九州市立大学 2 名、福岡大学 2 名、九州産業大学 1 名、琉球大学 1 名、東京学芸大学 1 名、東京農業大学 1 名

### 2) 歴史課博物館実習

学芸員課程の学生を受け入れ、各学芸員が数講座ずつ担当した。5 日間と 10 日間を学生が選択。

・期間: 8 月 23 日 (火) ~ 8 月 27 日 (土) および当館が指定した 5 日間

・人数: 11 名 (うち 3 名は 10 日間)

・所属大学: 北九州市立大学 1 名、東海大学 1 名、西南学院大学 1 名、九州産業大学 2 名、筑紫女学園大学 1 名、日本大学 1 名、福岡教育大学 1 名、駒澤大学 1 名、広島大学 1 名、専修大学 1 名



#### (4) 職場体験・職員研修受け入れ

教育機関等からの依頼を受け、生徒・学生・教職員などが研修生として働くことで、将来に向けての就業体験や社会人として広く見識を深めることが出来るように研修の企画・運営を行った。

##### 1) 職場体験受け入れ

- ・鎮西敬愛学園敬愛中学校（平成 28 年 7 月 27、28 日 3 名）
- ・北九州市立大谷中学校（平成 28 年 10 月 12、14 日 4 名）
- ・北九州市立中央中学校（平成 28 年 10 月 18、19 日 4 名）
- ・キャリアサポートクラブ（平成 28 年 12 月 3 日 8 名）

##### 2) 職員研修受け入れ

- ・福岡県立小倉高等学校（平成 28 年 8 月 2 日～4 日 教諭 2 名）
- ・福岡県立光陵高等学校（平成 28 年 8 月 2 日～4 日 教諭 1 名）
- ・福岡県立嘉穂東高等学校（平成 28 年 8 月 2 日～4 日 教諭 1 名）
- ・福岡県立ひびき高等学校（平成 28 年 8 月 2 日～4 日 教諭 1 名）
- ・文部科学省初等中等教育局（平成 28 年 11 月 22 日 1 名）

##### 3) プレ・インターンシップ受け入れ

- ・福岡県立大学（平成 28 年 9 月 8 日～12 日 1 名）

#### (5) 館内での講話等

依頼を受けて、生徒・学生・一般の方へ、各学芸員の専門分野の講話や解説を行った。

- ・対応件数計：37 回、約 500 名に対応
- ・主な依頼元：高等学校や大学等教育機関（市内、県内外）、市他部局、JICA 等

#### (6) 館外での講演等

依頼を受けた講演会等で児童や生徒、一般の方々へ、各学芸員の専門分野の講演等を行った。

- ・対応件数計：25 回、約 1000 名に対応
- ・主な講演先：小・中・高・大学等教育機関（市内、県内外）、博物館、各自治体、公共施設等

#### (7) 公務による大学での講義

- ・北九州市立大学
  - 「自然史へのいざない」自然史課学芸員全員 10 名 10 コマ
  - 「博物館資料保存論」自然史課（馬場 稔、下村通誉、太田泰弘、森 康、御前明洋）歴史課（松井和幸、日比野利信、富岡優子）
  - 「博物館展示論」自然史課（真鍋 徹、籾本美孝、馬場 稔、武石全慈、大橋智之、蓑島悠介）歴史課（松井和幸、日比野利信、富岡優子）
  - 「地球環境システム論」真鍋 徹、武石全慈 3 コマ
  - 「地域の文化と歴史」守友 隆 1 コマ
- ・福岡大学
  - 「博物館実習 II」 馬場 稔 1 コマ
- ・九州大学大学院
  - 「先端学際科学」 森 康 1 コマ
- ・岐阜大学
  - 「博物館展示論」 真鍋 徹 15 コマ（集中講義）
- ・九州国際大学
  - 「自然科学概論」 太田泰弘 15 コマ

#### (8) 団体・委員会への就任依頼

- ・真鍋徹
  - ・北九州市学術・研究都市貴重種対策検討委員会植物部会員（北九州市）
  - ・恒見朽網線（吉田・恒見工区）環境保全措置・事後調査検討委員（北九州市）
  - ・環境ミュージアムの展示を考える会委員（北九州市）

- ・福岡県環境影響評価専門委員（福岡県）
- ・遠賀川流域生態系ネットワーク検討委員会委員（九州地方整備局）
- ・小石原川ダム県境保全対策検討委員会委員（水資源機構）
- ・小石原川ダム県境保全対策検討委員会委員クマタカ検討部会委員（水資源機構）
- ・ナショナル・バイオリソース・プロジェクトにおける「情報発信体制の整備とプロジェクトの総合的推進」事業協力者（国立科学博物館）
- ・自然史レガシー継承・発信実行委員会委員（自然史レガシー継承・発信実行委員会）
- ・日本景観生態学会編集委員（日本景観生態学会）
- ・日本景観生態学会企画委員（日本景観生態学会）
- ・日本生態学会九州地区会地区委員（日本生態学会）
- ・下村通誉
  - ・第10期北九州市環境影響評価審査会委員（北九州市）
  - ・新西部水処理センター環境モニタリング委員会委員（福岡市）
  - ・博多湾環境保全計画推進委員会委員（福岡市）
  - ・「標本救済ネット」ケースワーカー（西日本自然史系博物館ネットワーク）
  - ・日本甲殻類学会学会誌 *Cancer* 編集委員長（日本甲殻類学会）
  - ・日本甲殻類学会学会賞選考委員長（日本甲殻類学会）
  - ・日本動物分類学会評議委員（日本動物分類学会）
- ・藪本美孝
  - ・北九州市学術・研究都市貴重種対策検討委員会タナゴ部会員（北九州市）
  - ・山口県立山口博物館協議会委員（山口県）
  - ・福島県・シーラカンス委員会国内委員（ふくしま海洋科学館）
  - ・石川県白山市手取層群化石調査団員（白山市）
  - ・金山川水系流域協議会委員（北九州県土整備事務所）
- ・馬場 稔
  - ・周南市ツル保護協議会委員（周南市）
  - ・福岡県環境審議会委員（福岡県）
  - ・福岡県サル被害対策検討委員会委員（福岡県）
  - ・福岡県地球温暖化対策実行計画専門委員会（福岡県）
  - ・大分県特別天然記念物カモシカ食害対策事業調査指導委員（大分県）
  - ・大分県天然記念物（動・植物）緊急調査指導委員（大分県）
  - ・日本生態学会九州地区会地区委員（日本生態学会）
- ・武石全慈
  - ・第10期北九州市環境影響評価審査会委員（北九州市）
  - ・北九州市学術・研究都市貴重種対策検討委員会委員（北九州市）
  - ・周南市ツル保護協議会委員（周南市）
  - ・福岡県環境影響評価専門委員（福岡県）
  - ・遠賀川流域生態系ネットワーク検討委員会委員（九州地方整備局）
  - ・日本鳥学会鳥類保護委員会委員（日本鳥学会）
- ・太田泰弘
  - ・日本洞窟学会事務局長（日本洞窟学会）
  - ・日本洞窟学会評議員（日本洞窟学会）
  - ・日本洞窟学会洞窟学雑誌編集委員（日本洞窟学会）
  - ・日本洞窟学会ケービングジャーナル編集委員（日本洞窟学会）
  - ・日本地質学会代議員（日本地質学会）
  - ・日本地質学会古生物部会幹事・世話人（日本地質学会）
  - ・福岡県環境教育学会運営委員（福岡県環境教育学会）
- ・森 康
  - ・日本鉱物科学会博物館委員会委員（日本鉱物学会）
- ・御前明洋
  - ・県の石出版プロジェクトチーム「福岡県の石」まとめ役（日本地質学会）

- ・大橋智之
  - ・日本古生物学会将来計画委員会委員（日本古生物学会）
- ・蓑島悠介
  - ・「標本救済ネット」ケースワーカー（西日本自然史系博物館ネットワーク）
  - ・福岡県地域社会教育 ICT 活用連携協議会（海の中道海洋生態科学館）
  - ・自然史レガシー継承・発信実行委員会委員（自然史レガシー継承・発信実行委員会）
  - ・日本甲虫学会評議員（日本甲虫学会）
  - ・日本甲虫学会和文誌編集委員（日本甲虫学会）
- ・松井和幸
  - ・「みんなでまもる文化財みんなをまもるミュージアム事業」 協力者（九州国立博物館）

### 13. 博物館ボランティア（シーダー）の活動

#### (1) 人数 (平成28年4月1日現在)

- 登録人数 45名 [男性 16名 女性 29名]
  - 30代 (1名) 40代 (2名) 50代 (6名)
  - 60代 (15名) 70代 (18名) 80代 (3名)

#### (2) 活動実績

- 延べ日数 354日
- 延べ活動回数 2,757回 (平均 61.3回/人)

#### (3) 活動内容

##### [展示案内グループ]

来館者に対して館内の施設案内、常設展・特別展の展示解説、スポット解説を行う。

##### [講座補助グループ]

体験プログラムの補助、学芸員の普及講座の補助、子ども教室・東田サマースクールおよびMTが行う授業（環境アクティブ・ラーニング、昔の道具調べ）の補助を行う。

##### [演示グループ]

子ども向けの恐竜や生き物の「折り紙」、九州の民話を抜粋した「手作り紙芝居」などの読み聞かせ、お手玉・コマ回しなどの「昔あそび」、糸紡ぎから機織りまでを体験する「小倉織」などの実演を行う。

#### (4) 研修

- およそ毎月1回の学芸員との「シーダーゼミ」を通して、シーダーとしての資質の向上に努めた。

実施日	人数	講 話 題	話者
第131回 5月27日 (金)	17名	鳥類の科レベルの分類の再確認 北九州市域の国境石について	武石 全慈 守友 隆
第132回 6月10日 (金)	19名	平尾台の草原 安川敬一郎関係資料	真鍋 徹 日比野利信
第133回 7月22日 (金)	22名	多様性館：エビ、カニ、無脊椎動物の展示解説 2 金剛力士像と鎮西上人像	下村 通誉 富岡 優子
臨時 7月22日 (金)	22名	特別展「恐竜博 2016」	大橋 智之
第134回 8月26日 (金)	20名	昆虫の分類 哺乳類の子殺しーハヌマンラングール	蓑島 悠介 馬場 稔
第135回 9月13日 (火)	21名	インドネシア産シーラカンスの展示 当館の壁や床の中の化石	藪本 美孝 御前 明洋
臨時 10月4日 (火)	11名	特別展「関門幕末維新伝」	日比野利信
第136回 10月26日 (水)	19名	高津尾の石灰岩礫が語るもの+α 縄文と弥生の顔	太田 泰弘 松井 和幸
第137回 11月19日 (土)	23名	エンバイラマ館の意図と解説 和気清麻呂と足立山	大橋 智之 富岡 優子
第138回 12月21日 (水)	19名	鳥類と生息環境 民家のしくみ	武石 全慈 中西 義昌
臨時 1月13日 (金)	18名	特別展「発掘された日本列島 2016」	原田 智也
第139回 1月27日 (金)	20名	ポケットミュージアム：甲虫について 「長州戦争 小倉口合戦」映像と関連資料	蓑島 悠介 守友 隆
第140回 2月15日 (水)	18名	ガシャモク～希少な水草とその保全～ 律令国家の時代	真鍋 徹 原田 智也
臨時 3月22日 (水)	17名	特別展「ホントはすごい！どうぶつ展」	武石 全慈
第141回 3月23日 (木)	20名	多様性館：エビ、カニ、無脊椎動物の展示解説 3 広寿山福聚寺と即非如一	下村 通誉 富岡 優子

## 1 4. 自然史友の会の活動

### 目 的

博物館とともに楽しく自然を研究し、正しく自然を理解し、自然史学の普及発展に寄与し、会員相互の親睦を図ることを目的とする（自然史友の会規約第2条）。

### 会員数

633名（平成29年3月31日現在）

### 役員等

会長：小林 繁、副会長：原田隆好・佐藤政弘、幹事長：新海義治、事業担当幹事7名、出版担当幹事10名、庶務会計担当幹事4名、会計監査2名、評議員45名、顧問13名

### 年会費

正会員：大人 3,000円、小・中・高生 1,000円、家族 4,000円。賛助会員：10,000円

### 活動内容

- (1) 会誌「わたしたちの自然史」の発行（B5版、総カラー24ページ）  
第136号（6月28日発行）：「総会・研究発表会報告（講演要旨6件付き）」等9件の報告  
第137号（12月22日発行）：「山田緑地のアカハライモリの産卵までの動き」等8件の報告  
第138号（3月15日発行）：「ウラナミジャノメ採集記録」等7件の報告  
第139号（3月16日発行）：「沖ノ島で鰭脚類を見ました！」等6件の報告
- (2) 研究部会の活動：例会の実施  
地質鉱物（第157～163回例会）、化石（第349～353回例会）、植物（第151～156回例会）、昆虫（データ入力11回）、水生動物（休止中）、両生・爬虫類（第202～210回例会）、鳥類（第126回例会）
- (3) 友の会合同野外観察会の実施  
9月22日（木・秋分の日）に足立山森林公園（北九州市小倉北区）にて実施。参加者31名。
- (4) 博物館との共催の野外観察会の実施  
野外観察会・夏休み教室を9回実施。
- (5) 市民向け室内講座の実施  
「植物細密画を描いてみよう！」  
第1回 7月10日（日）13:00～17:00、博物館実習室にて、参加者20名。  
第2回 10月23日（日）13:00～17:00、博物館実習室にて、参加者15名。
- (6) 会員向け室内講座の実施  
「カイコの一生ってどんなもの？」  
7月31日（日）13:00～16:00、博物館実習室にて。伴野 豊講師（九州大学准教授）、参加者18名。
- (7) 研究発表会の実施  
4月29日（金・祝）、博物館にて「北九州市の陸貝について」等9件の発表。参加者85名。
- (8) 会議等の実施  
総会（4月29日）、親睦会（4月29日）、評議員会（3月20日）、三役会（1回）、出版担当幹事会（3回）、事業担当幹事会（3回）、庶務会計担当幹事会（1回）、特別号検討委員会（1回）を実施。

## 15. 歴史友の会の活動

### 目的

本会は、考古学など歴史に関する学習を通じて自己啓発と会員相互の親睦を図り、正しい古代史への理解と認識を高めるとともに、博物館への協力によって北九州地域の文化の向上に寄与することを目的とする（歴史友の会会則第2条）。

### 会員数

182名（平成29年3月31日現在）

### 役員等

会長：山中英彦、顧問：野口委有、副会長岩井勝治・渡辺善夫、会計3名、会計監査2名、会員管理1名、講座運営担当9名、遺跡見学運営担当9名、広報・会誌編集6名

### 年会費

正会員：5,000円 賛助会員：10,000円以上 臨時会員：実費（資料代）800円

### 活動内容（平成28年度）

- (1) 会誌「友の会だより」の発行（A4版、総カラー6ページ、年3回）
- (2) 講演会 年9回開催、参加者総計1,251名

日時	講演タイトル	講師	人数
4月16日（土）	世界文化遺産 八幡製鐵所	元新日鐵(株)八幡製鐵所部長 菅 和彦 先生	77人
6月11日（土）	出雲国風土記の世界	島根県立古代出雲歴史博物館 学芸員 吉永 壮志 先生	127人
7月9日（土）	土井ヶ浜遺跡の弥生人 人骨が解き明かす日本人の起源	土井ヶ浜人類学ミュージアム 学芸員 高椋 浩史 先生	99人
8月6日（土）	真田幸村（信繁）と大坂の陣	大阪城天守閣 館長 北川 央 先生	106人
9月17日（土）	重留遺跡出土広形銅矛重要文化財指定記念シンポジウム 重留銅矛は何を語るか ～邪馬台国の時代 in 北九州～	（公財）北九州市芸術文化振興財団埋蔵文化財調査室長 佐藤 浩司 先生 福岡大学人文学部歴史科 教授 武末 純一 先生 愛媛大学ミュージアム 准教授 吉田 広 先生 奈良県立橿原考古学研究所・桜井市纏向学研究センター 共同研究員 森岡 秀人 先生	240人
10月8日（土）	特別展「明治維新と北九州」関連講演会 幕長戦争の実像	広島大学名誉教授 三宅 紹宣 先生	225人
12月3日（土）	近代建築からみた北九州	北九州市立自然史・歴史博物館 学芸員 中西 義昌	78人
1月21日（土）	徹底解説「発掘された日本列島展2016」	文化庁文化財部記念物課 埋蔵文化財部門 川畑 純 先生	164人
3月11日（土）	卑弥呼の銅鏡・三角縁神獣鏡を語る	元福岡女子短期大学教授 藤丸 詔八郎 先生	135人

### (3) 遺跡見学会 年4回開催

日時	場所	人数
6月19日（日）	新入会員史跡見学会（北九州・みやこ町周辺）	20名
9月30日（金）～10月2日（日）	遺跡見学会（奈良県飛鳥地方）	45名
11月13日（日）	遺跡見学会（下関市・土井ヶ浜方面）	42名
2月5日（日）	遺跡見学会（大分・竹田方面）	46名

## 16. 資料の収集保存状況

### (1) 自然史課

#### 1) 平成 28 年度資料収集状況

平成 28 年度の自然史資料登録点数は以下のとおりである。

	27 年度末累計	28 年度登録数					28 年度末累計
		寄贈	寄託	購入	採集	小計	
生物系	79,260	97	0	868	39	1,004	80,264
地学系	35,124	1,432	0	47	18	1,497	36,621
合計	114,384	1,529	0	915	57	2,501	116,885

#### 2) 平成 28 年度収集資料の概要

平成28年度の主な収集資料として、アオウミガメ剥製標本1点、タイマイ剥製標本1点、ミヤマクワガタ雌雄モザイク個体1点、行徳直己氏の昆虫コレクション、および久川健氏のトンボコレクション、ニシキエビ標本1点、ブラジル産前期白亜紀魚類化石9点、プロトプテルム類と思われる尾椎化石1点、*Heteroptychodus steinmanni* 4点などをご寄贈いただいた。また、カナダ・ブリティッシュコロンビア産フズリナ石灰岩（約27kg）を採集した。

### (2) 歴史課

#### 1) 平成 28 年度資料収集状況

平成 28 年度の歴史資料登録点数は以下のとおりである。

	27 年度末累計	28 年度登録数					28 年度末累計
		寄贈	寄託	購入	採集	小計	
歴史系	33,425	8	0	65	0	73	33,498
考古系	43,900	0	0	0	0	0	43,900
合計	77,325	8	0	65	0	73	77,398

#### 2) 平成 28 年度収集資料の概要

平成 28 年度には、3 名の個人の方から資料の寄贈を受けた。具体的には小倉南区の方から「兼光」銘の刀 1 振を、同じく小倉南区在住の方から和鑑 5 点および矢立 1 点を、東京都在住の方から昭和 35（1960）年の小倉大博覧会関係資料（煙草パッケージ、会場鳥瞰図）2 点をご寄贈いただいた。

購入資料は堀切辰一氏が収集した古布資料のうち 65 点で、当館が誇る古布コレクション「襤褸」を充実させるものである。

このほかにも受入・登録を前提として調査・整理を進めている資料が少なからずある。現在整理を継続して行っており、随時登録を進めていきたい。

## 17. 資料の特別観覧状況（自然史・歴史）

	担当課	資料名	目的	所属/団体名	閲覧者	人数	閲覧日
1	自然史	関門層群産脊椎動物化石	関門層群産脊椎動物化石の記載	福岡大学	加藤一希 長屋 亨 田上 響	3	H28.4 ～ H29.3
2	自然史	アリ類標本	アリ類の分類学的研究	鹿児島大学・シンガポール自然史博物館	山根正気・ Wendy Wang	2	H28.4.12 ～ H28.4.14
3	自然史	ケツアルコアトルス全身骨格標本	大型翼竜骨格の三次元データ測定	豊田中央研究所	野村壮史 他	6	H28.4.13
4	自然史	シーラカンスを含む中生代魚類化石	シーラカンスを含む中生代魚類化石の分類学的研究	ブラジル州立大学	Paulo Brito	1	H28.5.12 ～ H28.5.17
5	自然史	蝶類標本	蝶類標本の調査研究及び整理		横地 隆	1	H28.5.20 ～ H28.5.21
6	自然史	アリ類標本	アリ類標本の調査研究及び整理	鹿児島大学	山根正気	1	H28.7.10 ～ H28.7.13
7	自然史	アリ類標本	アリ類標本の調査研究及び整理	鹿児島大学	山根正気	1	H28.9.27 ～ H28.9.30
8	自然史	<i>Yamatocetus</i> 及び <i>Metasqualodon</i>	クジラ類化石の比較観察	国立科学博物館	Cheng-Hsiu Tsai	1	H28.10.8 ～ H28.10.9
9	自然史	蛾類標本	蛾類の分類学的研究	東京大学総合研究博物館	矢後勝也	1	H28.10.24
10	自然史	蝶類標本	蝶類標本の調査研究及び整理		横地 隆	1	H28.11.6
11	自然史	クモ類液浸標本	クモ類標本の調査		入江照雄	1	H28.11.10
12	自然史	プロトプテルム類の大腿骨	西海市で発掘された大腿骨化石の比較検討	西海市教育委員会	森 浩嗣	1	H28.12.9
13	自然史	水生昆虫標本	水生昆虫の調査		岩田泰幸	1	H28.12.16 ～ H28.12.17
14	自然史	アリ類標本	アリ類標本の調査研究及び整理	鹿児島大学	山根正気	1	H29.1.10 ～ H29.1.13
15	自然史	蛾類標本	蛾類標本の調査		二町一成	1	H29.1.27 ～ H29.1.28
16	自然史	蛾類標本	蛾類標本の調査		町島佳幸	1	H29.1.28
17	自然史	蛾類標本	蛾類標本の調査		水野利彦	1	H29.1.28 ～ H29.1.30
18	自然史	ディッキンソニア	エディアカラ生物群の研究	東京大学大学院	佐々木智啓	1	H29.3.30
19	自然史	ブラキオダス化石	佐世保層群から産出した炭酸科化石標本の比較研究	倉敷芸術科学大学	加藤敏史	1	H29.3.31
20	歴史	野村家系譜	特別展「後藤又兵衛の出奔と細川忠興」図録への掲載	行橋市歴史資料館	山中英彦	1	H28.4.28
21	歴史	吉永資料 491・895・1090・1094・1106	郷土史（黄檗宗）研究		渡邊正裕	1	H28.5.26
22	歴史	辻田遺跡出土旧石器資料	日本列島における旧石器時代前期の研究	魚津市教育委員会	麻柄一志	1	H28.7.16
23	歴史	岩松文書 43・89・210-1～3・336・466	岩松文書の内容の研究	岩松助左衛門翁顕彰会	清田禮助	1	H29.1.20
24	歴史	旧小倉図書館所蔵 小笠原文書 88-1～4・89-1～3、旧小笠原玲子氏所蔵 小笠原文書 12・26・33～35・40・43・50・65・66・153・177～180・283・397～399	明石市史編さん	明石市史編さん委員会	大国正美	1	H29.2.3
25	歴史	辻田遺跡出土旧石器資料	九州旧石器文化研究会による資料討論会	九州旧石器文化研究会	杉原敏之	11	H29.2.25
26	歴史	辻田遺跡出土旧石器資料	大陸（中国・韓国）出土前期旧石器との比較検討	同志社大学	松藤和人	4	H29.2.27
27	歴史	門司港全図	門司港に関する研究	九州共立大学	尾道建二	1	H29.3.18



## 18. 資料の貸出状況（自然史・歴史）

	担当課	資料名	点数	貸出先	使用目的	貸出期間
1	自然史	ツシマウラボシシジミ	1	矢後勝也（東京大学総合研究博物館）	蝶類の分類学的研究	H28.4.5～ H29.4.4
2	自然史	バショウカジキ、マカジキ	2	国立科学博物館	企画展「生き物をくらしに活かす」での展示	H28.4～ H28.10
3	自然史	オバケオオキバウスバカミキリ	1	豊田ホテルの里ミュージアム	夏季テーマ展「収蔵標本展 カミキリムシ」での展示	H28.5.20～ H29.9.16
4	自然史	島根県産ジュラ紀アンモナイト	6	島根県立三瓶自然館	特別展「ジュラシック・シー」での利用	H28.5.20～ H29.9.16
5	自然史	ヒサゴトビハムシ属バラタイプ標本	6	YongYing Ruan（中国科学院）	ハムシ科の分類学的研究	H28.5.31～ H29.5.30
6	自然史	Alienoptera 目化石標本	1	Gunter Bechly（州立シュトゥットガルト自然史博物館）	絶滅目 Alienoptera（昆虫綱）の分類学的研究	H28.5.31～ H29.5.30
7	自然史	<i>Hyastenus kyushuensis</i>	2	小松浩典（国立科学博物館）	クモガニ類の分類学的研究	H28.6.10～ H28.7.31
8	自然史	クラドセラス、ショニサウルス（頭骨）、クラドキクルス、ミクロプリスティスの一種、スクレロリンクス・アダプス、カラモプレウルス、ヴィンクティファーを飲み込んでいるカラモプレウルス、ズンガリプテルス、ケアラダクティス、バショウカジキ、マカジキ、シロワニ、ニタリ	12	国立科学博物館	企画展「海のハンター展」での展示	H28.6.15～ H28.10.13
9	自然史	フタゴヤシ、ココヤシ、アルソミトラ、ラクレンシア（レプリカ）、シュモクザメ、クワツラヘラサギ、アノマロカリス（生体復元）	10	宮崎県総合博物館	夏季特別展「ワクワク！ふしぎ生物ワンダーランド」での利用	H28.7.5～ H28.9.15
10	自然史	メガニューラ復元模型	1	東映株式会社	松江市グリーンガーデンでの展示会「池田先生のなぜなぜ昆虫ワールド」での利用	H28.7.14～ H28.8.23
11	自然史	ジョウカイモドキ科	22	浅野 真	甲虫目ジョウカイモドキ科の分類学的研究	H27.7～ H28.7
12	自然史	パキケファロサウルス頭骨レプリカ、テリジノサウルス爪レプリカ、プロバクトロサウルス前身骨格（中肋）、恐竜の卵（巣）レプリカ	4	イオンモール福岡	夏休み恐竜展での展示	H28.8.1～ H28.8.8
13	自然史	スピノサウルス上顎レプリカ、竜脚類大腿骨レプリカ、竜脚類腓骨実物化石、マウソニア全身骨格レプリカ	4	朝日新聞社文化事業部	「恐竜博 2016」大阪会場での展示	H28.9.7～ H29.1.31
14	自然史	宗像市産ヒラキウス実物化石	一式	宮田和周（福井県立恐竜博物館）	ヒラキウス類の分類学的研究	H28.9.13～ H29.11.20
15	自然史	芦屋層産貝化石	10	北九州市立江川小学校	授業での利用	H28.10.19～ H28.11.21
16	自然史	<i>Agononida pilosimanus</i>	1	Dr. Anna McCallum（Museum Victoria）	コシオリエビ類の分類学的研究	H28.11.5～ H29.11.4
17	自然史	ムツアシガニ類（ <i>Hexapus sexpes</i> ）	2	成瀬 貫（琉球大学）	ムツアシガニ類の分類学的研究	H28.12.8～ H29.12.7
18	自然史	宗像市産哺乳類（コリフォドン類）化石	14箱	宮田和周（福井県立恐竜博物館）	新生代における絶滅哺乳類類の研究	H29.3.20～ H30.3.19
19	自然史	ガムシ科ハバヒログムシ亜科	191	Dr. Martin Fikacek（チェコ国立自然史博物館）	ガムシ科の分類学的研究	H29.3.30～ H30.3.29
20	歴史	飛脚里程はかり（八幡市立図書館寄託）	1	北九州市立八幡図書館	八幡図書館移転開館記念展示として寄託資料の里帰り展での紹介	H28.4.19～ H28.5.31
21	歴史	野村家系譜（野村昌弘氏寄託）	1	行橋市歴史資料館	特別展「後藤又兵衛の出奔と細川忠興」での展示	H28.6.13～ H28.8.14
22	歴史	重留遺跡出土広形銅矛レプリカ、弥生土器壺（高槻式土器）	2	吉野ヶ里歴史公園マネジメント共同企業体吉野ヶ里公園管理センター	特別企画展「よみがえる邪馬台国 倭人伝の道 IV-謎の国不弥国-」での展示	H28.9.5～ H28.11.11
23	歴史	野村家系譜（野村昌弘氏寄託）	1	行橋市歴史資料館	特別展「後藤又兵衛の出奔と細川忠興」の取材対応	H28.9.14～ H28.9.21
24	歴史	靱帯痕のある土器（北九州市長行遺跡出土）、磨製石庖丁（北九州市貫川遺跡）、孔列土器片（北九州市貫川遺跡）	3	水巻町教育委員会	企画展「縄文から弥生へ」での展示	H29.1.11～ H29.2.28
25	歴史	重留遺跡出土 銅矛 複製	1	株式会社スタジオオ十三	文化企画課による重留遺跡出土広形銅矛展示台作成	H29.2.15～ H29.3.31

## 19. 画像等資料の貸出状況（自然史・歴史）

	担当課	資料名	点数	貸出先	使用目的	申請日
1	自然史	ナウマンゾウ全身骨格レプリカ画像	1	株式会社童夢	PHP 研究社刊行「ポケット版 日本の「なぜ？」に答えるお話 100」への掲載	H28.4.21
2	自然史	ブテラノドン全身復元骨格画像	1	株式会社 gb	宝島社刊『ムック 最新版！恐竜のすべて』への掲載	H28.5.26
3	自然史	クラドセラス、ショニサウルス（頭骨）、クラドキクルス、マイクロプリステイスの一種、スクレロリンクス・アダプス、カラムプレウスル、ズンガリプテルス、ケアラダクティス、バショウカジキ、マカジキ、シロワニ、ニタリ	12	国立科学博物館、日本経済新聞社	「海のハンター展」での利用	H28.6.15
4	自然史	バラサウロロフス下顎内側画像	1	読売新聞大阪本社科学事業推進事務局	豊橋市自然史博物館で開催の特別展「メガ恐竜展 in 豊橋」の図録に掲載	H28.6.27
5	自然史	メガニューラ復元模型の画像	1	東映株式会社	松江市グリーンガーデンでの展示会「池田先生のなぜなぜ昆虫ワールド」での利用	H28.7.14
6	自然史	イナバテナガコガネ化石標本写真	1	森勇一氏（金沢学院大学）	雄山閣刊「続ムシの考古学（申請者執筆）」への掲載	H28.7.20
7	自然史	ネズミザメ剥製標本写真	1	NHK 宇都宮放送局	番組「ひるまえほっと」での使用	H28.8.16
8	自然史	アンモナイト ( <i>Praviloceras</i> ) の画像	1	ネイチャー&サイエンス社	河出書房社刊「楽しい動物化石」への掲載	H28.8.21
9	自然史	脇野魚類化石群の画像	1	産業技術総合研究所・地質標本館	県の石に関する公開イベント用ポスターへの掲載	H28.8.23
10	自然史	キリン骨格標本画像	1	株式会社童夢	ベネッセコーポレーション刊「チャレンジ 3 年生フシギ！大発見ブック冬号」への掲載	H28.9.29
11	自然史	<i>Cordelia koizumii</i> , <i>Neogonerilia okamurai</i>	2	矢後勝也（東京大学総合研究博物館）	シジミチョウ科の分子系統樹構築	H28.10.24
12	自然史	小野勇一先生画像	1	ふくおか水もり自慢 in 古賀現地実行委員会	古賀市生涯学習センターで開催される「ふくおか水もり自慢 in 古賀」における小野先生の顕彰コーナーでの展示	H28.11.4
13	自然史	展示室、外観の画像	2	技術評論社	書籍「しんかのお話 365 日」における博物館紹介コーナーへの掲載	H28.12.12
14	自然史	テイオウゼミ、ミンダナオオオヤママユ	2	有限会社ハユマ	PHP 研究社刊「ジュニア学習ブックレットシリーズ『巨大生物』（仮称）」への掲載	H29.2.3
15	自然史	ケツアルコアトルス生体復元、ズンガリプテルス骨格レプリカ、ケアラダクティルス実物化石、プロトプテルム復元骨格各画像	4	鳥取県立博物館	平成 29 年度企画展「つばさの博覧会-巨大翼竜からペンギンまで-」における広報及び図録掲載	H29.2.19
16	自然史	カンボデルシエロ隕石標本画像	1	編集プロダクション	別冊ニュートン「元素と周期表」に掲載	H29.2.27
17	自然史	アースモール（展示室）の画像	1	ドゥアンドゥプランニング	「生物ミステリーPRO 図譜（仮称）」への掲載（技術評論社発行）	H29.2.28
18	自然史	ティラノサウルスの画像	1	ドゥアンドゥプランニング	「ヒサクニヒコの世界恐竜絵地図」への掲載（岩崎書店発行）	H29.3.2
19	自然史	マウソニア・ラボカティ（標本）の画像	1	学研プラス	「学研の図鑑 live 古生物」への掲載	H29.3.10
20	自然史	ドレパナスピス（魚類化石）展示標本画像	1	豊田ホテルの里ミュージアム	平成 29 年度春季企画展「身近な魚の鱗」におけるパネル展示	H29.3.31
21	自然史	ケツアルコアトルス展示標本画像	1	株式会社美和企画	学研プラス刊「学研の図鑑 live 古生物」	H29.3.31
22	歴史	豊前小倉図、豊国名所「中津口」部分	2	株式会社 TVQ 九州放送	TVQ「おとななテレビ」番組内での中津口の紹介用資料	H28.4.13
23	歴史	小笠原忠真画像（広寿山福聚寺寄託）	1	株式会社天夢人	雑誌『週刊ビジュアル江戸三百藩』第 34 号（ハーバーコリンズ・ジャパン社）「明石藩」への掲載	H28.4.20
24	歴史	小倉織半袴（川野芳子氏寄託）、神安製小倉織袴地、神安工場の小倉織袴見本裂地	3	ハースト婦人画報社「美しいキモノ」編集部	雑誌『美しいキモノ』における「全国染織紀行 九州地方の染織紀行」内、「小倉織」記事掲載	H28.4.29
25	歴史	川ひらた、九州小倉合戦図（瓦版）、小倉戦争図（許山文書）	3	ユニオン映画株式会社	BS 日テレ「片岡愛之助の解明！歴史捜査」番組内での紹介	H28.5.5
26	歴史	即非画像（広寿山福聚寺寄託）、中原嘉左右日記	2	株式会社天夢人	雑誌『週刊ビジュアル江戸三百藩』第 41 号（ハーバーコリンズ・ジャパン社）への掲載	H28.6.7
27	歴史	元禄十二年若松附近古絵図（写）	1	合同会社花乱社	中村修身『北九州・京築・田川の城』への写真掲載	H28.6.12

28	歴史	小倉城復元模型、小倉城鉄門跡（現地写真）	2	株式会社 碧水社	碧水社編『城大全』（ニューキャン）への掲載	H28.6.30
29	歴史	小笠原秀政所用具足、小笠原忠脩所用具足、小笠原忠真所用具足（広寿山福聚寺寄託）	3	松本市教育委員会松本城管理事務所	国宝松本城夏の太鼓門特別公開展示「激闘！歴代松本城主と大坂の陣」内パネル展示	H28.7.12
30	歴史	黒田二十四騎画像「堀平右衛門」部分画像	1	筑前町教育委員会	（仮称）『筑前町の歴史』（筑前町史ダイジェスト版）への掲載	H28.9.17
31	歴史	玉江家（飴屋）古写真（快哉楼から本宅の裏手および街並みを見渡した画像）	2	行橋市教育委員会	玉江家の屋敷跡に残る行橋市指定有形文化財「旧飴屋門」の傍らに立てる解説板に使用	H28.9.25
32	歴史	小笠原忠真画像（広寿山福聚寺寄託）	1	北九州市経済産業局食の魅力創造・発信室	食の魅力創造・発信室が作成する「ぬか炊き」をPRするチラシへの掲載	H28.10.25
33	歴史	弥生土器 高杯	1	株式会社 学研アソシエ	日本大学付属高校2年生の模試に資料として掲載	H28.12.5
34	歴史	小倉領藍嶋略図、長州戦争図（許山文書371）、小倉藩領分捕之図	3	九州歴史資料館	『福岡県の中近世城館跡IV』への掲載	H29.1.14
35	歴史	黒田二十四騎画像	1	LOCAL&DESIGN株式会社	北九州市圏連携協議会発行「知るほどに物語ありて 北の九州パンフレット概要版」への掲載	H29.1.18
36	歴史	金剛力士立像画像（原資料は如法寺所蔵）	1	有限会社海鳥社	『福岡歴史の山歩き』への掲載	H29.1.20
37	歴史	小笠原忠真画像（広寿山福聚寺寄託）	1	株式会社ブリッジ	毎日放送「ちんぷいぷい」朝ごはん食べよう！コーナーで放送するVTR内での使用	H29.2.15
38	歴史	密貿易船打払図	1	ミシシッピ大学歴史学部ウィルソン・ノエル	学芸論文への掲載	H29.2.15
39	歴史	黒田二十四騎画像	1	LOCAL&DESIGN株式会社	北九州市圏連携協議会発行「知るほどに物語ありて 北の九州パンフレット詳細版」への掲載	H29.2.21
40	歴史	豊国名所「三官飴図」部分	1	北九州市経済産業局食の魅力創造・発信室	食の魅力創造・発信室で作成する北九州の「食」をまとめたパンフレットへの掲載	H29.3.8
41	歴史	慶応二丙寅年七月廿七日小倉表戦争之図、九州小倉合戦図	2	株式会社長崎ケーブルメディア	「なんでんカフェ」番組内での使用	H29.3.10
42	歴史	黒田二十四騎画像	1	LOCAL&DESIGN株式会社	北九州市圏連携協議会発行「知るほどに物語ありて 北の九州」ポスターへの掲載	H29.3.16
43	歴史	黒田直之像、堀平右衛門像、黒田一成像（原資料は春日神社所蔵）	3	朝倉市教育委員会	朝倉市秋月博物館常設展示パネルおよびガイドブックへの掲載	H29.3.16
44	歴史	小笠原忠真画像、小笠原忠真所用具足（広寿山福聚寺寄託）	2	松本市教育委員会松本城管理事務所	国宝松本城春の太鼓門特別展示「松本城のフシギな伝説」内パネル展示	H29.3.16
45	歴史	彦夢物語、小笠原忠枕写真	2	株式会社天夢人	雑誌『週刊ビジュアル江戸三百藩』83号（ハーバーコリンズ・ジャパン社）の「小倉藩 年代記」への掲載	H29.3.22
46	歴史	宝山貝塚出土 縄文土器	1	行橋市教育委員会	行橋市内に設置する文化財説明板への掲載	H29.3.22

## 20. 学芸員研究業績（自然史）

### （1）論文など

- 真鍋徹・須田隆一・清水敬司. (2017) 絶滅危惧水生植物ガシヤモクの散布体バンクからの発生. 景観生態学, 21, 121–125.
- Shimomura, M. (2017) A new species of *Aspidophryxus* (Isopoda, Dajidae), ectoparasitic on *Mysidella hoshinoi* (Mysidae) in Japan. *ZooKeys*, 646, 109–118.
- Mottaghi, A., Shimomura, M., Wee, H. B. & Reimer, J. D. (2017) Investigating the effects of disturbed beaches on crustacean biota in Okinawa, Japan. *Regional Studies in Marine Science*, 10, 75–80.
- Shimomura, M. (2016) *Mysidella hoshinoi*, a new species from Izu-Oshima Island, Japan (Crustacea, Mysidae, Mysidellinae). *ZooKeys*, 620, 21–32.
- Shimomura, M. & Tomikawa, K. (2016) *Epimeria abyssalis* sp. n. from Kuril-Kamchatka Trench (Crustacea, Amphipoda, Epimeriidae). *ZooKeys*, 638, 125–142.
- 下村通誉 (2016) 日本産ミズムシ亜目の分類. *Cancer*, 25, 109–112.
- Ariyama, H., Saito, N. & Shimomura, M. (2016) *Heterophryxus pacificus*, a new species of dajid isopod from the central North Pacific. *Crustacean Research*, 45, 29–35.
- Chow, S., Konishi, K., Mekuchi, M., Tamaki, Y., Nohara, K., Takagi, M., Niwa, K., Teramoto, W., Manabe, H., Kurogi, H., Suzuki, S., Ando, D., Jimbo, T., Kiyomoto, M., Hirose, M., Shimomura, M., Kurashima, A., Ishikawa, T. & Kiyomoto, S. (2016) DNA barcoding and morphological analyses revealed validity of *Diadema clarki* Ikeda, 1939 (Echinodermata, Echinoidea, Diadematidae). *ZooKeys*, 585, 1–16.
- 布村昇・下村通誉 (2016–2017) 日本産等脚類の分類(33)–(38). 海洋と生物 (隔月掲載, 6回分) .
- Yabumoto, Y. & Brito, P. M. (2016) A new Triassic coelacanth, *Whiteia oishii* (Sarcopterygii, Actinistia) from West Timor, Indonesia. *Paleontological Research*, 20(3), 233–246, figs. 1–13.
- Yabumoto, Y. (2017) A revision of the amiiform fish genus *Sinamia* with phylogeny of Sinamiidae. *Paleontological Research*, 21(1), 76–92, figs. 1–13.
- 藪本美孝・石垣忍・田口栄次 (2017) 岡山県新見市の備北層群より発見された中新世サバ科サワラ族魚類化石について. 北九州市立自然史・歴史博物館研究報告 A 類, 15, 5–9, figs. 1–5.
- 杉野広利・太田泰弘・原賀いずみ・花田秀揮・高橋俊吾・大橋直子・森三保・加藤久美子・八百屋さやか・大澤得二・白川正樹・浦田健作・森ふさ恵・富永重稔・葉山彰・船井泰乃・宮田薫 (2017) 北九州ジオパーク構想の普及推進事業を充実・継続した活動実績. ジオ&バイオ研究会報告書, 6, 3–44.
- Arakawa, Y., Endo, D., Ikehata, K., Oshika, J., Shinmura, T. & Mori, Y. (2017) Two types of gabbroic xenoliths from rhyolite dominated Niijima volcano, northern part of Izu-Bonin arc: petrological and geochemical constraints. *Open Geoscience*, 9, 1–12.
- Kiminami, K., Imaoka, T., Ogura, K., Kawabata, H., Ishizuka, H. & Mori, Y. (2017) Tectonic implications of Early Miocene OIB magmatism in a near-trench setting: The Outer Zone of SW Japan and the northernmost Ryukyu Islands. *Journal of Asian Earth Sciences*, 135, 291–302.
- Nishiyama, T., Yoshida-Shiosaki, C., Mori, Y. & Shigeno, M. (2017) Interplay of irreversible reactions and deformation: a case of hydrofracturing in the rodingite–serpentinite system. *Progress in Earth and Planetary Science*, 4, 1. DOI 10.1186/s40645-016-0115-4.
- 関琢磨・荒川洋二・新村太郎・大鹿淳也・森康・池端慶 (2016) 阿蘇火山北西部に分布する Aso-4 火砕流堆積物, 弁利サブユニットの層序と岩石学的特徴. *火山*, 61, 429–448.
- 御前明洋 (2016) 和歌山県有田川地域の外和泉層群二川層より産する上部白亜系サントニアン階-カンパニアン階軟体動物化石. *化石*, 100, 125–135.
- Tanabe, K., Misaki, A., Hikida, Y. & Nishimura, T. (2017) New records of coleoid cephalopod jaws from the Upper Cretaceous of Hokkaido, Japan, and their paleobiogeographic and evolutionary implications. *Cretaceous Research*, 70, 128–141.
- Takeuchi, T., Takahashi, R., Kiyoshi, T., Nakamura, M., Minoshima, Y. N. & Takahashi, J. (2017) The origin and genetic diversity of the yellow-legged hornet, *Vespa velutina* introduced in Japan. *Insectes Sociaux*, in press.
- Minoshima, Y. N., Iwata, Y. & Hayashi, M. (2016) Egg-case and pupa of *Enochrus* (*Methydrus*)

- japonicus* (Sharp) (Coleoptera, Hydrophilidae). *Coleopterists Bulletin*, 70 (3), 562–565.
- Minoshima, Y. N., Fikáček, M. & Ôhara, M. (2016) Distribution of a conspicuous terrestrial hydrophilid beetle *Cercyon lineolatus* (Motschulsky) (Coleoptera, Hydrophilidae, Sphaeridiinae). *Elytra, New Series*, 6 (1), 165–169.
- Minoshima, Y. N. (2016) Taxonomic review of *Agraphydrus* from Japan (Coleoptera: Hydrophilidae: Acidocerinae). *Entomological Science*, 19 (4), 351–366.
- Jia, F., Tang, Y. & Minoshima, Y. N. (2016) Description of three new species of *Crenitis* Bedel, with additional faunistic records from China (Coleoptera: Hydrophilidae: Chaetarthriinae). *Zootaxa*, 4208 (6), 561–576.
- Devi, M. B., Devi, O. S., Fikáček, M., Minoshima, Y. N. & Wanghengbam, L. (2016) Redescription and lectotype designation of *Chasmogenus abnormalis* (Sharp), with notes on its distribution. *Zootaxa*, 4144 (2), 296–300.

## (2) 書籍・普及書など

- 藪本美孝 (2017) 桑島化石壁の魚類化石. はくさん (石川県白山自然保護センター普及誌), 44 巻 3 号, 7–11, 図 1–7.
- 藪本美孝 (2016) 鰓から顎へ. pp. 8–9; 大型化. p.12; 魚類の進化と代表的なハンター「顎のある魚の出現」. pp. 18–21; 最強の顎の持ち主 ダンクルオステウス. p. 18; サメにつながる系統 クラドセラケ. p. 21; 歴史的な相討ち カラモプレウルス, クラドキクルス. p. 25; ホホジロザメやアオザメの祖先, クレトオキシリナ, スクレロリンクス・アタプス, ミクロプリステイス. p. 26. In 篠原現人 (監修), 国立科学博物館「海のハンター展」図録, 日本経済新聞社, BS ジャパン, 東京, 128pp.
- 藪本美孝 (2016) シーラカンスとポリプテルス復原図監修とその解説. pp. 70–71, マウソニア, アクセルトディクチス. pp. 74–75. In 真鍋 真 (監修), 国立科学博物館「恐竜博 2016」図録. 朝日新聞社, 東京, 148pp.
- 大橋智之・藪本美孝 (2016) スピノサウルスの背中「帆」の機能に関する新仮説の紹介と問題点. p. 76. In 真鍋真 (監修), 国立科学博物館「恐竜博 2016」図録. 朝日新聞社, 148pp.

## (3) 学会等講演

- 真鍋徹・伊東啓太郎・高木幸一(2016)常緑広葉樹が優占する都市林の 12 年間の群集動態.日本景観生態学会第 26 回北海道大会. 酪農学園大学.
- 伊東啓太郎・須藤朋美・真鍋徹(2016) 風土性とランドスケープデザイン～北九州市夜宮公園の設計プロセスと今後の課題.日本景観生態学会第 26 回北海道大会. 酪農学園大学.
- Ito, K., Sudo, T., Fjortoft, I., Manabe, T. & Kamada, M. (2016)Vernacular landscape design for biodiversity - Design process of urban green in Japan. IFLA AR-URBIO CONFERENCE 2016. Panama City.
- Shimomura, M. & Higashiji, T. Three species of parasitic isopods from the Ryukyu Islands, southwestern Japan. The 87<sup>th</sup> Annual Meeting of the Zoological Society of Japan. Okinawa Convention Center.
- 下村通誉・星野修 (2016) 伊豆大島から得られたアミヤドリムシ科等脚類の 1 種. 日本動物分類学会第 52 回大会. 北海道大学.
- 下村通誉・星野修 (2016) 伊豆大島から得られたアミ類 *Mysidella* に寄生するアミヤドリムシ科等脚類 *Aspidophryxus* の 1 種. 日本甲殻類学会第 54 回大会. 鹿児島大学.
- Mottaghi, A. Shimomura, M. & Reimer, J. D. 2016. Examining impacts of artificial beaches on crustaceans in Okinawa, Main Island. The 23<sup>rd</sup> Pacific Science Congress “Science, Technology, and Innovation: Building a Sustainable Future in Asia and the Pacific”. Academia Sinica, Taipei, Taiwan.
- 藪本美孝・石垣忍・田口栄次(2016)岡山県新見市の備北層群より発見された中新世サバ科サワラ族魚類化石について. 日本古生物学会 2016 年年会. 福井県立大学.
- 宮田真也・藪本美孝(2016)山形県温海町に分布する関川層から産出した中新世コイ科魚類. 日本古生物学会 2016 年年会. 福井県立大学.
- 田中望羽・藪本美孝・佐藤たまき(2016)下部三畳系マダガスカル産シーラカンス類の鱗. 日本古生

- 物学会 2016 年年会. 福井県立大学.
- 酒井佑輔・真鍋真・伊左治鎮司・平山 廉・松本涼子・藪本美孝・松岡 篤(2016)福井県大野市九頭竜地域の手取層群伊月層より産出する白亜紀前期生物群. 日本古生物学会 2016 年年会. 福井県立大学.
- 井堰絵里佳・伏見清香・藪本美孝・池本誠也・真鍋真(2016)博物館の展示環境における携帯端末用展示解説 Web の試み. 日本デザイン学会第 63 回春季研究発表大会. 長野大学.
- 井堰絵里佳・伏見清香・藪本美孝・池本誠也・真鍋真(2016)ヴィジュアルリテラシーを踏まえた展示解説 Web の研究. ヴィジュアルリテラシー国際シンポジウム「都市とヴィジュアルリテラシー」. 名古屋大学.
- 藪本美孝・Paulo M. Brito・岩田雅光・安部義孝(2017)ふくしま海洋科学館所蔵のマダガスカル産三疊紀のシーラカンス. 日本古生物学会第 166 回例会. 早稲田大学.
- 宮田真也・国府田良樹・柳沢幸夫・藪本美孝・角田昭二・加藤太一・安藤寿男・長谷川善和(2017)北茨城市下部中新統亀ノ尾層から産出したサバ科サワラ族魚類. 日本古生物学会第 166 回例会. 早稲田大学.
- 太田泰弘 (2016) ジオパーク構築における park boundary の重要について. 日本地質学会第 123 年学術大会. 東京・桜上水.
- 太田泰弘・野井英明・梅崎恵 (2016) 小倉北区藍島の魅力を活用した自然体験型環境教育. 福岡県環境教育学会第 19 回年会.
- 太田泰弘 (2016) 平尾台の価値を“見える化”する北九州ジオパーク活動. 日本洞窟学会第 42 回大会. 荇田町.
- 野井英明・太田泰弘・梅崎恵司 (2016) 環境教育への応用が期待できる北九州市とその周辺地域のフィールドと観察ガイド資料. 福岡県環境教育学会第 19 回年会.
- 荒川洋二・関琢磨・新村太郎・大鹿淳也・森康・池端慶 (2016) 阿蘇火山北西部に分布する Aso-4 火砕流堆積物の層序と岩石学. 日本火山学会 2016 年度秋季大会. 富士吉田市民会館.
- Hasenaka, T., Sugiyama, F., Shiihara, K., Yamasaki, H., Mori, Y., Hokanishi, N. & Yasuda, A. (2016) Precursory eruptions of Aso-4 caldera-forming pyroclastic flows: melt inclusion study to characterize magma supply system. The 26th Goldschmidt Conference. Yokohama, Japan.
- 川口允孝・長谷中利昭・望月伸竜・渋谷秀敏・森康 (2016) 阿蘇中央火口丘群北西部, 完新世火山噴出物の組成変化. 日本地球惑星科学連合 2016 年大会. 幕張メッセ.
- 森康・重野未来・西山忠男 (2016) 蛇紋岩メランジュにおける流体岩石相互作用と反応促進型透水性: 深部スロー地震との関連. 日本地質学会第 123 年学術大会. 日本大学. 招待講演.
- 森康・井浦一・石橋秀巳 (2016) 福岡県産オパサイト(角閃石)玄武岩の全岩化学組成: 考古学への応用. 日本鉱物科学会 2016 年年会. 金沢大学.
- 重野未来・森康・川本竜彦・西山忠男 (2016) ヒスイ輝石岩類と曹長岩類の流体包有物からのスラブ流体へのアプローチ. 日本鉱物科学会 2016 年年会. 金沢大学.
- 椎原航介・長谷中利昭・安田 敦・外西奈津美・森康 (2016) 阿蘇-4 火砕噴火直前に活動した大峰火山噴出物の化学組成: メルト包有物組成を用いた阿蘇-4 との比較. 日本地球惑星科学連合 2016 年大会, 幕張メッセ.
- 杉山芙美子・長谷中利昭・安田敦・外西奈津美・森康 (2016) 阿蘇-4 火砕噴火前に噴出した Aso-ABCD テフラの岩石学的特徴. 日本地球惑星科学連合 2016 年大会, 幕張メッセ.
- 御前明洋・小松俊文・三宅優佳(2016)九州南西部甌島列島からの白亜紀後期アンモノイド *Eulophoceras* (スフェノディスクス科) の産出. 日本古生物学会 2016 年年会. 福井県立大学.
- 棚部一成・御前明洋・疋田吉識・西村智弘・Dirk Fuchs(2017)北太平洋域の後期白亜紀鞘形類動物群とその意義. 日本古生物学会第 166 回例会. 早稲田大学.
- 大橋智之 (2016) 北部九州の杵島層群と芦屋層群産出の漸進世プロトプレテルム科鳥類の再検討. 日本古生物学会 2016 年年会. 福井県立大学.
- 大橋智之 (2017) 視覚障害者も含めた古生物を用いた博物館ハンズオン展示の検討. 日本古生物学会第 166 回例会. 早稲田大学.
- 蓑島悠介 (2017) 海外博物館事例調査報告 Národní Muzeum (Praha) (チェコ国立博物館). 海外の自然史博物館における収蔵庫と収蔵展示を考える. 大阪市立自然史博物館.

#### (4) 外部資金獲得状況

##### 【文部科学省科学研究費助成事業科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金】

基盤研究(C) 自然・文化景観から人と自然との関わりを現出するための新たな研究手法の構築.

研究代表者：真鍋徹. 研究分担者：富岡優子・中西義昌・御前明洋. 2014–2017 年度.

基盤研究(C) 日本産魚類化石による魚類分岐年代解析と魚類化石データベース構築に関する研究.

研究代表者：簗本美孝. 2014–2017 年度.

基盤研究(C) 被災館と海外の館を繋ぐ携帯情報端末を使用した参加型成長連携ミュージアムの支援. 研究分担者：簗本美孝 (研究代表者：伏見清香). 2016–2018 年度.

基盤研究(A) 本邦初産超高压クロミタイトとマイクロダイヤモンド. 研究分担者：森 康、連携研究者：重野未来 (研究代表者：西山忠男). 2016–2019 年度.

基盤研究(B) 沈み込むスラブからマントルウェッジへの水流体の化学組成の変化. 研究分担者：森康・重野未来 (研究代表者：川本竜彦). 2016–2018 年度.

基盤研究(C) 新たな変成反応進行過程の提案と反応継続時間の推定. 研究分担者：森 康・重野未来 (研究代表者：宮崎一博). 2016–2019 年度.

基盤研究(C) ヒスイ輝石岩に包有されたスラブ起源流体の塩濃度. 研究代表者：重野未来、研究分担者：森 康. 2015–2017 年度.

新学術領域研究 スロー地震の地質学的描像と摩擦・水理特性の解明. 研究分担者：森 康 (研究代表者：氏家恒太郎). 2016–2020 年度.

基盤研究(C) 脊椎動物における嘴の機能と進化. 研究分担者：大橋智之 (研究代表者：田上 響). 2015–2017 年度.

挑戦的萌芽研究 宿主によって形を変える寄生虫は存在するか?. 研究代表者：下村通誉. 2015–2017 年度.

若手研究(B) 自然史系博物館における恐竜を用いた、研究を体験できる体系的な触れる展示の開発. 研究代表者：大橋智之. 2014–2016 年度.

##### 【その他の補助金】

笹川科学研究助成・実践研究部門 特異な形の異常巻アンモノイドの古生態解明と化石の研究過程を示す博物館展示への活用. 研究代表者：御前明洋. 2016 年度.

## 2 1. 学芸員研究業績（歴史）

### （1）論文・著書など

松井和幸(2017)「弥生時代鉄製錬の可能性—熊本県阿蘇のリモナイト」『広島大学大学院文学研究科考古学研究室 50 周年記念論集・文集』広島大学大学院文学研究科考古学研究室(p.p.231-246)

守友 隆(2016)「文化度朝鮮通信使と小倉藩主小笠原忠固—上使任命の背景と昇進運動」『福岡地方史研究』第 54 号、福岡地方史研究会(p.p.4-20)

守友 隆(2017)「「異船追却志草稿」諸本の紹介—享保の「唐船」打ち払いに関する福岡藩士の記録」『北九州市立自然史・歴史博物館研究報告』B 類歴史第 14 号、北九州市立自然史・歴史博物館(p.p.74(1)-38(37))

守友 隆(2017)「「対州御供御仕立」の紹介—文化度朝鮮通信使に関する小倉藩の見積書」『北九州市立自然史・歴史博物館研究報告』B 類歴史第 14 号、北九州市立自然史・歴史博物館(p.p.36(39)-1(74))

原田智也(2017)『津田神社遺跡第 2 地点』北九州市教育委員会

原田智也編(2017)『城野遺跡第 2・4 地点』北九州市教育委員会

### （2）外部資金取得状況

#### 【文部科学省科学研究費助成事業科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金】

基盤研究(C)近代日本における企業家のネットワーク形成—地方財閥における人脈の総合的研究—。研究代表者：日比野利信。2016-2018 年度。

基盤研究(C)自然・文化景観から人と自然との関わりを現出するための新たな研究手法の構築。研究分担者：富岡優子、中西義昌、御前明洋（代表者：真鍋 徹）。2014-2017 年度。

若手研究(B)幕末における海外文化の収集活動と翻訳について。研究代表者：上野晶子。2013-2019 年度。

若手研究(B)九州を中心とする仏涅槃図の基礎的研究。研究代表者：富岡優子。2014-2017 年度。

若手研究(B)近世後期・幕末維新时期日朝間における海外事件情報流通の研究—対馬藩宗家史料を中心に。研究代表者：守友 隆。2015-2017 年度。

#### 【その他の補助金】

出光文化福祉財団平成 28 年度調査・研究助成 棟方志功の足跡—海道シリーズの成立と北九州の民藝運動を中心に。研究代表者：富岡優子。2017-2018 年度。



## 2 2. 博物館刊行物

### (1) 研究報告 A 類 自然史 第 15 号 (2017 年 3 月 31 日発行)

Keiichi Kakui, Atuko Suzuki, Hiroaki Nakano & Hisanori Kohtsuka. Habitat of a tanaidacean *Apseudes nipponicus* Shiino, 1937. pp. 1-3. [角井敬知・鈴木敦子・中野裕昭・幸塚久典. *Apseudes nipponicus* Shiino, 1937 (甲殻亜門タナイス目) の生息環境. pp. 1-3]

Yoshitaka Yabumoto, Shinobu Ishigaki & Eiji Taguchi. A Miocene scombrid fish tribe Scomberomorini from the Bihoku Group in Niimi Okayama Prefecture, Japan. pp. 5-9. [簗本美孝・石垣 忍・田口栄次. 岡山県新見市の備北層群より発見された中新世サバ科サワラ族魚類化石について. pp. 5-9]

### (2) 研究報告 B 類 歴史 第 14 号 (2017 年 3 月 31 日発行)

#### 【資料紹介】

守友 隆 「「異船追却志草稿」諸本の紹介—享保の「唐船」打ち払いに関する福岡藩士の記録」  
(pp.74(1)–38(37))

守友 隆 「「対州御供御仕立」の紹介—文化度朝鮮通信使に関する小倉藩の見積書」  
(pp.36(39)–1(74))

### (3) 資料集・目録など

『東アジア友好博物館交流事業企画展 着物が語る日本の心』(2016 年 11 月 15 日発行)



年 報  
平成 28 年度

---

発 行 日 平成 29 年 3 月 31 日  
編集・発行 北九州市立自然史・歴史博物館  
北九州市八幡東区東田 2-4-1  
TEL 093-681-1011  
FAX 093-661-7503  
<http://www.kmnh.jp>



北九州市環境マスコットキャラクター  
ていたん&ブラックていたん

©ていたん&ブラックていたん、北九州市



北九州市立 自然史・歴史博物館

いのちのたび博物館

KITAKYUSHU MUSEUM OF NATURAL HISTORY & HUMAN HISTORY